機械設備工事共通仕様書

平成２４年７月

西日本高速道路株式会社

総　目　次

第１編　　総　　則

第１章　　総　　則

第２編　　トンネル非常用設備工事

第３編　　トンネル換気設備工事

第４編　　ブース空気調和設備工事

第５編　　重量計等取締機器設備工事

第１章　総　　則

第１節　目的

1.1.1
目　　的

機械設備工事共通仕様書（以下「共通仕様書」という。）は西日本高速道路株式会社（以下「当社」という。）が発注する管工事,非常用設備工事，換気設備工事，その他これらに類する工事（以下「工事」という。）に係る工事請負契約書（以下「契約書」という。）及び設計図書の内容について，統一的な解釈及び運用を図るとともに，工事実施上必要な事項を定め，もって契約の適正な履行の確保を図るためのものである。

第２節　用語の定義

1.2.1
用語の定義

契約書類に使用する用語の定義は，　次の各号に定めるところによる。

(1)　「契約書類」とは，契約書第１条に規定する契約書及び設計図書をいう。
(2)　「仕様書」とは，共通仕様書及び特記仕様書（これらにおいて明記されている適用すべき諸基準を含む。），入札者に対する指示書，質問回答書及びこれらを補足する書類をいう。
(3)　「特記仕様書」とは，共通仕様書を補足し，工事の施工に関する明細又は特別な事項を定める書類をいう。
　また，発注者がその都度提示した変更特記仕様書若しくは追加特記仕様書を含むものとする。
(4)　「図面」とは，入札に際して発注者が交付した設計図及び発注者から変更又は追加された設計図をいう。ただし，詳細設計を含む工事にあっては，契約書類及び監督員の指示に従って作成されたと監督員が認めた詳細設計の成果品の設計図を含むものとする。
(5)　「施工図等」とは，設計図，施工図，製作図，機器製作仕様書その他これに類する詳細図等をいう。
(6)　「監督員」とは，契約書第９条第１項の規定に基づき，発注者が定め受注者に通知した者をいう。
(7)　「副監督員」，「主任補助監督員」，「補助監督員」及び「施工管理員」とは，本章1.6.2,1.6.3及び1.6.4の規定に基づき，監督員が定め受注者に通知した者をいう。
(8)　「請負人等」とは，当該工事請負契約の請負人又は契約書

の規定により定められた現場代理人をいう。

(9)　「監督員の指示」とは，監督員が請負人に対し，工事の施工上必要な事項について書面をもって示し，実施させることをいう。

(10)　「監督員の承諾」とは，請負人等が監督員に対して書面で申し出た事項について監督員が書面をもって了解することをいう。

(11)　「監督員と協議」とは，協議事項について，監督員と請負人等とが結論を出すために合議し，その結果を書面に残すことをいう。

(12)　「監督員へ提出」とは、請負人等が監督員に対し、書面又はその他の資料を説明し、差し出すことをいう。

(13)　「監督員へ提示」とは、請負人等が監督員に対し、書面又はその他の資料をもって示し、説明することをいう。

(14)　「しゅん功検査」とは，契約書第31条第２項の規定に基づき，工事の完成を確認するために行う検査をいう。

(15)　「一部しゅん功検査」とは，契約書第38条第１項の規定に基づき，指定部分の完成を確認するために行う検査をいう。

(16)　「しゅん功検査員」「一部しゅん功検査員」とは，それぞれ契約書第31条第２項の規定に基づき，「しゅん功検査」又は「一部しゅん功検査」を行うため発注者が定めた者をいう。

(17)　「出来形部分」とは，契約書類の規定に従い適正に履行された工事の部分をいう。

(18)　「出来高」とは，契約書第37条第３項の規定に基づき，確認された工事の出来形部分の請負代金額をいう。

(19)　「数量の検測」とは，工事の出来形部分の測定及び施工内容の確認をいう。

(20)　「書面」とは，手書き，印刷物等の伝達物をいい，発行年月日を記載し，署名又は捺印したものを有効とする。

　ただし，緊急を要する場合は，ファクシミリ又はＥメールにより伝達できるものとするが，後日，有効な書面と差換えるものとする。

(21)　「変更設計図面」とは，契約変更時の添付図面として，入札に際して発注者が交付した設計図を，監督員が受注者に行った工事の変更指示に基づき修正したものをいう。

(22)　「同等品以上の品質」とは，品質について，特記仕様書で指定する品質，又は特記仕様書に指定がない場合には，監督員が承諾する試験機関の品質の確認を得た品質，若しくは，監督員の承諾した品質をいう。

(23)　「JIS」とは，工業標準化法（昭和24年法律第185号）に基

づく日本工業規格をいう。
(24) 「参考図」とは，契約書類に含まれない図書で，発注者及び受注者を拘束するものではない。ただし、特記仕様書で指定しているものは除くものとする。

第３節　日数等の解釈

1.3.1
日数等の解釈

契約書類における期間の定めは契約書第１条第９項の規定によるものとするが，工期以外の日数の算定に当たっては，12月29日から翌年1月3日及び5月3日から5月5日までの期間の日数は算入しないものとする。

第４節　契約書類の解釈

1.4.1
契約書類の相互補完

契約書類は，相互に補完し合うものとし，そのいずれか一つによって定められている事項は，契約の履行を拘束するものとする。

1.4.2
共通仕様書，特記仕様書及び図面の優先順位

共通仕様書，特記仕様書又は図面との間に相違がある場合には，特記仕様書，図面，共通仕様書の順に優先するものとする。

1.4.3
図面の実測値と表示された数字

図面から読み取って得た値と図面に書かれた数字との間に相違がある場合は，数字が優先するものとする。

第５節　設計図書の照査等

1.5.1
設計図書の貸与

監督員は，受注者の要求があり，必要と認めるときは，特記仕様書，図面の原図を貸与する。

ただし，各種施工管理要領，工事記録写真等撮影要領(施設編)及び工事記録作成要領等市販・公開されているものにあっては，受注者の負担において備えるものとする。

1.5.2
設計図書の照査

受注者は，施工前及び施工途中において，受注者の負担により設計図書の照査を行い，契約書第18条第1項第1号から第5号に該当する事実がある場合は，監督員にその事実が確認できる資料を書面により提出し，確認を求めなければならない。

なお，確認できる資料とは，現場地形図，設計図との対比図，取り合い図，施工図等を含むものとし、受注者は監督員から更に詳細な説明又は書面の追加の要求があった場合は従わなければならない。

1.5.3
設計図書の保管

受注者は，契約の目的のために必要とする以外は，設計図書を監督員の承諾なくして第三者に使用させ，又は伝達してはならない。

第６節　監督員及び主任補助監督員等

1.6.1
監督員の権限

契約書第９条第２項の規定に基づき，監督員に委任した権限は次の各号に掲げるものをいう。

(1)　契約書第２条の規定に基づき行う関連工事の調整
(2)　契約書第15条の規定に基づき行う支給材料及び貸与品の取扱い
(3)　契約書第16条第４項の規定に基づき受注者に代わって行う物件の処分，工事用地等の修復若しくは跡片付け
(4)　契約書第16条第５項の規定に基づき行う受注者のとるべき措置の期限，方法等の決定
(5)　契約書第18条第３項の規定に基づき行う調査結果の通知
(6)　契約書第18条第４項の規定に基づき行う設計図書の訂正又は変更
(7)　契約書第19条の規定に基づき行う設計図書の変更
(8)　契約書第20条の規定に基づき行う工事の全部又は一部の施工の一時中止の指示
(9)　契約書第22条の規定に基づき行う工期の短縮変更の請求
(10)　契約書第23条の規定に基づき行う工期の変更日数に関する協議，決定
(11)　契約書第24条第３項の規定に基づき行う増加費用又は負担額に関する協議，決定のうち次に掲げる事項
　1)　契約書第８条の規定に基づき行う費用の負担
　2)　契約書第15条第７項の規定に基づき行う費用の負担
　3)　契約書第17条第１項の規定に基づき行う費用の負担
　4)　契約書第18条第５項の規定に基づき行う費用の負担
　5)　契約書第19条の規定に基づき行う費用の負担
　6)　契約書第20条第３項の規定に基づき行う費用の負担
　7)　契約書第22条第３項の規定に基づき行う費用の負担
　8)　契約書第26条第４項の規定に基づき行う費用の負担
　9)　契約書第27条の規定に基づき行う費用の負担

10)　契約書第28条の規定に基づき行う費用の負担
11)　契約書第29条第４項の規定に基づき行う費用の負担
12)　契約書第33条第３項の規定に基づき行う費用の負担

(12)　契約書第25条第３項の規定に基づき行う変動前残工事代金額及び変動後残工事代金額に関する協議，決定
(13)　契約書第30条の規定に基づき行う設計図書の変更内容に関する協議，決定
(14)　契約書第33条第１項の規定に基づき行う部分使用に関する協議，決定
(15)　「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」第12条第1項の規定に基づく説明先及び同法第18条の規定に基づく報告先

1.6.2
副監督員

監督員は，必要と認めた場合には自己を補佐するとともに技術に関する点検及び指導を行うための副監督員を置くことができる。この場合において，監督員は，副監督員の氏名を受注者に通知するものとする。

1.6.3
主任補助監督員

監督員は，自己を補助させるため主任補助監督員を定め，監督員の権限とされる事項のうち監督員が必要と認めた権限を委任することができるものとする。

この場合において，監督員は主任補助監督員の氏名を受注者に通知するものとし，委任した権限の内容は特記仕様書に示すものとする。

1.6.4
補助監督員
施工管理員

監督員は，自己又は主任補助監督員を補助させるため補助監督員，施工管理員を定め，自己又は主任補助監督員の権限とされる事項のうち監督員が必要と認めた権限を委任することができるものとする。この場合において，監督員は補助監督員の氏名並びに施工管理員の氏名及び所属会社名を受注者に通知するものとし，委任した権限の内容は特記仕様書に示すものとする。

第７節　現場代理人等

1.7.1
現場代理人等の設置

(1)　契約書第10条第１項の規定に基づき設置する現場代理人，主任技術者，監理技術者，専門技術者（以下「現場代理人等」と

いう。）は，受注者に所属する者とする。受注者は，監督員から監督員の指示した雇用関係を示す書面の提出を求められた場合は，その求めに応じなければならない。

(2)　契約書第10条第1項の規定に基づき設置する主任技術者，監理技術者が専任を要する工事の場合において，次の期間は専任を要しないものとする。

1)　工事開始の日から本章１－12に示す着工日までの期間。

2)　構造物の詳細設計が含まれている工事で，構造物の詳細設計期間であって，かつ工事現場が不稼動であること。

3)　機器等の工場製作が含まれている工事で，機器等の工場製作期間であって，かつ工事現場が不稼動であること。

4)　契約書第31条第４項の規定に基づき発注者が工事の完成を確認した以降の期間。

5)　契約書第20条第１項及び第２項の規定に基づき，工事を全面的に一時中止している期間。

6)　規制抑制後、設計図書に定める期間であって，かつ工事現場は不稼動と監督員が認めた期間。

(3)　契約書第10条第２項の規定に基づき配置する現場代理人は，上記(2)　1)，5)，6)の期間について常駐を要しないものとする。

ただし，この場合であっても監督員との連絡に支障をきたさないものとする。

(4)　入札前に競争参加資格確認資料又は技術資料（以下「確認資料等」という。）を提出した工事における現場代理人，主任技術者及び監理技術者の配置については次のとおりとする。

1)　現場代理人，主任技術者及び監理技術者のうち必ず１名以上は，確認資料等の「配置予定の現場代理人又は主任（監理）技術者の工事経験」を求める様式に記載した者の中から選定し，選定した者を原則として契約期間中配置しなければならない。

2)　主任技術者及び監理技術者は，確認資料等の「配置予定の主任（監理）技術者の資格」を求める様式に記載した者の中から選定し，選定した者を原則として契約期間中配置しなければならない。

なお，監理技術者は監理技術者資格者証及び監理技術者修了証を有する者でなければならない。

3)　共同企業体（経常建設共同企業体を含む）を構成する場合は，構成員毎に主任技術者又は監理技術者を必ず１名以上選定しなければならない。

なお，工事を施工するために締結した下請契約の請負代金

額（当該下請契約が二以上あるときは，それらの請負代金の総額とする。）が3,000万円以上になるときは，構成員のうち１社は監理技術者を配置しなければならない。

4)　構造物若しくは機器等（以下「構造物等」という。）の詳細設計又は構造物等の製作を含む工事において，詳細設計中又は工場製作中に配置した現場代理人等を詳細設計完了後又は工場製作完了後に変更する場合は，上記１）及び２）によるものとする。

5) 病気・死亡・退職等極めて特殊な事情により，上記1)及び2)の手続きにより選定した者を配置することが困難となった場合は，その理由及び別に配置する技術者の氏名，実績，資格を付して監督員の承諾を得なければならない。なお，監督員の承諾を得て別に配置する技術者は，原則として下記の要件を満足するものでなければならない。

1)　の場合は配置予定の現場代理人又は主任（監理）技術者に求めた工事経験と同等以上の工事経験を有する者。

2)　の場合は配置予定の主任（監理）技術者の資格で求めた資格を有する者。ただし，入札手続きに総合評価落札方式（技術者を評価対象としている場合）が適用された工事にあっては，確認資料に記載した各配置予定技術者について，評価結果と同等以上の資格及び経験等を有する者で，監理技術者は監理技術者証及び監理技術者講習修了証を有する者でなければならない。

(5)　確認資料等を提出しない工事における現場代理人等の配置については次のとおりとする。

1)　主任技術者及び監理技術者は，当該工事に対応する建設業法の許可業種に係る有資格者を選定し，選定した者を原則として契約期間中配置しなければならない。

なお，監理技術者は監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者でなければならない。

2)　経常建設共同企業体を構成する場合は，構成員毎に当該工事に対応する建設業法の許可業種に係る監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する監理技術者又は当該工事に対応する建設業法の許可業種に係る国家資格を有する主任技術者を必ず１名以上選定しなければならない。

なお，工事を施工するために締結した下請契約の請負代金額（当該下請契約が二以上あるときは，それらの請負代金の総額とする。）が3,000万円以上になるときは，構成員のうち１社は監理技術者を配置しなければならない。

3)　病気・死亡・退職等極めて特殊な事情により，継続配置す

ることが困難となった場合は，その理由及び別に配置する技術者の氏名，資格を付して監督員の承諾を得なければならない。ただし，監督員の承諾を得て別に配置する技術者は，建設業法の許可業種に係る資格を有する者でなければならない。なお，監理技術者証は、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者でなければならない。

4)　構造物等の詳細設計又は構造物等の製作を含む工事において，詳細設計中又は工場製作中に配置した現場代理人等を詳細設計完了後又は工場製作完了後に変更する場合は，上記３）によるものとする。

1.7.2
現場代理人の権限

契約書第10条第2項に規定する「設計図書に示したもの」とは，次の各号に掲げるものをいい，現場代理人は，これらの権限を行使することができないものとする。

(1)　契約変更に係るもの
本章1.37.1に規定するもの

(2)　請負代金の請求及び受領に係るもの
1)　契約書第32条第１項及び第38条の規定による請負代金の請求
2)　契約書第34条第１項及び第40条の規定による前払金の請求
3)　契約書第37条第１項，　第５項及び第41条の規定による部分払の請求
4)　契約書第37条第２項及び本章1.40.1に規定する出来形部分の確認請求及び結果の受理
5)　契約書第39条第２項及び第３項の規定による年度出来高予定額の承諾願の提出
6)　契約書第45条第４項の規定による遅延利息の請求
7)　契約書第42条第１項の規定による第三者による代理受理の承諾願の提出
8)　本章1.42.1の規定による金融機関の口座の指定
9)　本章1.40.2の規定による工事出来形部分検査額の提出期限の変更協議

(3)　契約の解除に係るもの
契約書第49条に規定するもの

(4)　工事関係者に関する措置請求に係るもの
契約書第12条に規定するもの

(5)　工事の完成に係るもの
1)　契約書第31条第１項，本章1.41.1及び第38条の規定による

通知
2)　契約書第31条第２項及び第38条の規定による検査結果の受理
3)　契約書第31条第４項及び第38条の規定による工事目的物の引渡しの申し出
(6)　権利義務の譲渡等に係るもの
契約書第５条の規定による承諾願の提出
(7)　紛争の解決に係るもの
契約書第52条及び第53条に規定するもの

1.7.3
現場代理人等の常駐

現場代理人は，契約書第10条第２項の規定に基づき，施工が実際に進行している間は工事現場に常駐しなければならない。
ただし，監督員の承諾を得た場合はこの限りではない。
なお，監督員の承諾により，受注者は契約上のいかなる責任又は義務を免れるものではない。

第８節　提出書類

1.8.1
監督員を経由しない提出書類

契約書第９条第5項に規定する「設計図書に定めるもの」とは，次の書類をいう。
(1)　契約書第４条の規定による保証証券の寄託
(2)　契約書第12条第４項の規定による監督員に関する措置請求
(3)　契約書第32条第１項及び第38条の規定による請負代金の支払に係る請求書
(4)　契約書第34条第１項及び第40条の規定による保証証書の寄託及び前払金の支払に係る請求書
(5)　契約書第35条及び第40条の規定による変更後の保証証書の寄託
(6)　契約書第37条第１項，第５項及び第41条の規定による部分払の請求書
(7)　契約書第42条第１項の規定による第三者による代理受理の承諾願
(8)　契約書第45条第４項の規定による遅延利息の請求書
(9)　その他現場説明の際指定した書類

1.8.2
提出書類の様式

受注者が発注者に提出する書類で様式が定められていないものは，受注者において様式を定め，提出するものとする。
ただし，発注者又は監督員がその様式を指示した場合は，これ

に従わなければならない。

第９節　工事用地等の使用

1.9.1
工事用地等の使用

受注者は契約書第16条第１項に規定する「工事用地等」を無償で使用することができるものとする。
ただし，工事用地等は，専ら工事の施工目的に使用するものとする。

1.9.2
受注者が確保すべき工事用地等

工事の施工上当然必要とされる用地及び特記仕様書において受注者が確保すると規定した場合の用地については，受注者の責任で確保し，これを安全に保全管理するものとする。
この場合において，工事の施工上当然必要とされる用地とは，営繕用地（請負人の現場事務所，宿舎，駐車場等）及び専ら受注者が使用する用地並びに構造物掘削等に伴う借地等をいう。
ただし,特記仕様書に使用が可能とされた敷地が定められている場合は，許可を得て特記仕様書記載の目的に使用することが出来るものとする。

1.9.3
苦情又は紛争の防止

受注者は，前項の土地の使用にあたっては，事故・損傷を防止しなければならない。また，苦情又は紛争が生じないように努めなければならない。

1.9.4
施設管理

受注者は，工事現場における公物（各種公益企業施設を含む。）又は部分使用施設（契約書第33条の適用部分）について，施工管理上，契約図書における規定の履行を以ってしても不都合が生じる恐れがある場合は，その処置について監督員と協議するものとする。

第１０節　関係官公署及び関係会社への手続き

1.10.1
関係官公署及び関係会社への手続き

(1)　受注者は，道路，鉄道，河川，水路，電力施設，通信施設，ガス施設及び水道施設等に関連する箇所の施工及び使用に当たっては，受注者の行うべき関係官公庁及びその他の関係機関への届出等を，法令，条例又は設計図書の定めにより実施しなければな

らない。
　ただし，これにより難しい場合は，監督員の指示を受けなければならない。
(2)　受注者は，これらの打合せ，協議等の内容は，後日紛争とならないよう文書で確認する等明確にしておくとともに，状況を随時監督員に報告し，指示があればそれに従うものとする。
(3)　受注者は，工事に関連する箇所の施工及び使用にあたり許可承諾条件がある場合，これを遵守しなければならない。なお、受注者は，許可承諾内容が設計図書に定める事項と異なる場合は，速やかに監督員に報告し，その指示を受けなければならない。

第１１節　地元関係者との交渉等

1.11.1 地元関係者との交渉

　受注者は，地方公共団体，地域住民等と工事の施工上必要な交渉を,自らの責任において行うものとする。受注者は，これらの交渉に当たっては誠意をもって対応しなければならない。

1.11.2 地元関係者との紛争の防止

　受注者は，工事の施工に当たり，地域住民との間に紛争が生じないように努めなければならない。

1.11.3 地元関係者との紛争の解決

　受注者は，地元関係者等から工事の施工に関して苦情があり、受注者が対応すべき場合は，誠意をもってその解決に当たらなければならない。

1.11.4 交渉文書等の整備

　受注者は，前項までの交渉等の内容は，後日紛争とならないよう文書で確認する等明確にしておくとともに，状況を随時監督員に報告し，指示があればそれに従うものとする。

第１２節　着工日

1.12.1 着工日

　受注者は，契約締結後30日以内に着工しなければならない。この場合において，着工とは，受注者が工事の施工のため現地に事務所等の建設又は測量等を開始することをいう。

第１３節　作業日

1.13.1
作業日

受注者は，設計図書に定める場合を除き，夜間，土曜，日曜，祝日（振替休日を含む）及び12月29日から翌年１月３日までの期間に作業を行ってはならない。やむを得ず作業を行う必要がある場合は，受注者は，理由を付した書面を監督員に提出し，その承諾を得なければならない。

第１４節　工事の下請負

1.14.1
下請負の要件

受注者は，下請負に付する場合には，次の各号に掲げる要件を全て満たさなければならない。

(1)　受注者が工事施工につき総合的に企画，指導及び調整するものであること。
(2)　下請負人が当社における競争参加資格登録取消又は停止の措置期間中でないこと。
(3)　下請負人は当該下請負工事の施工能力を有すること。

1.14.2
施工体制台帳等

(1)　施工体制台帳
　受注者は，工事を施工するために締結した下請契約の請負代金額（当該下請負が二以上あるときは，それらの請負代金の総額）が3,000万円以上になるときは，別に定める国土交通省令に従って記載した施工体制台帳を作成し，工事現場に備えるとともに監督員に提出しなければならない。
　なお，施工体制台帳を修正したときも同様とする。
(2)　施工体系図の提出
　受注者は，前項に示す施工体制台帳を作成した場合は，国土交通省令の定めに従って，各下請負人の施工の分担関係を表示した施工体系図を作成し，工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に揚げなければならない。また，施工体系図に記載した受注者の監理技術者，主任技術者及び専門技術者並びに下請負人の主任技術者の顔写真，氏名，生年月日，所属会社名を表示した技術者台帳（様式第22号）を作成し，工事現場に備えるとともに，工事名，工期，顔写真，所属等の入った名札を着用させなければならない。
　受注者は，作成した施工体系図及び技術者台帳を監督員に提出しなければならない。

なお，施工体系図及び技術者台帳を修正したときも同様とする。

第１５節　請負人相互の協力

1.15.1
請負人相互の協力

受注者は，隣接工事又は関連工事の請負人と十分に調整の上相互に協力し，施工しなければならない。

また，関連のある電力，通信，水道施設等の工事及び地方公共団体等が施工する関連工事が同時に施工される場合にも，これら関係者と相互に協力しなければならない。

第１６節　工事関係者に対する措置

1.16.1
現場代理人に対する措置

発注者は，現場代理人が工事目的物の品質・出来形の確保及び工期の遵守に関して，著しく不適当と認められるものがある場合は，受注者に対して，その理由を明示した書面により，必要な措置をとるべきことを請求することができる。

1.16.2
上記以外の技術者に関する措置要求

発注者又は監督員は，主任技術者（監理技術者），専門技術者（これらの者と現場代理人を兼務する者を除く）が工事目的物の品質・出来形の確保及び工期の遵守に関して，著しく不適当と認められるものがある場合は，受注者に対して，その理由を明示した書面により，必要な措置をとるべきことを請求することができる。

第１７節　暴力団等による不当介入に対する措置

1.17.1
暴力団等による不当介入に対する措置

(1)　請負人は，下請負人等（再下請負人，資材納入業者等の発注工事に関係する者を含む。以下同じ。）の選定にあたっては，以下の要件を満たさなければならない。

・暴力団員が実質的に経営を支配する業者又はこれに準ずるも

のでないこと。

(2)　請負人は，(1)に掲げる事項について，下請負人等に対して十分指導しなければならない。

(3)　請負人は，工事の施工に際して暴力団等からの不当要求，暴力的不当行為及び不当な誹謗中傷による健全な事業推進に対する妨害（以下，「不当介入」という。）に対し断固としてこれを拒否し，また，不当介入を受けた場合は，速やかに別途監督員の指示する様式により，監督員に報告するとともに，警察に通報し，捜査上必要な協力を行わなければならない。

(4)　監督員へ不当介入を報告した後，請負人は監督員と連絡を密にし，その指示により対応を図るものとする。なお，工程等に支障が生じることが明らかな場合は，あらかじめ監督員と協議しなければならない。

(5)　発注者は，(1)に掲げる事項について疑いが生じ，警察から排除要請があった場合には，状況によって契約書第12条に基づく措置請求を行う。

第１８節　技術業務

1.18.1 工事内容の変更等の補助業務

受注者は，契約書第18条及び第19条の規定に基づき発注者が行う業務の補助として必要な次の各号に掲げる作業を，監督員の指示に従い実施しなければならない。

(1)　工事材料に関する調査試験
(2)　測量等現地状況の調査
(3)　設計，図面作成及び数量の算出
(4)　観測業務
(5)　施工方法の検討
(6)　変更設計図面作成及び変更数量の算出
(7)　その他資料の作成及び上記に準ずる作業

1.18.2 特殊な調査及び試験への協力等

受注者は，発注者が自ら又は発注者が指定する第三者が行う特殊な調査及び試験に対して，監督員の指示によりこれに協力しなければならない。この場合，発注者は具体的な内容等を事前に受注者に通知するものとする。

(1)　公共事業労務費調査

受注者は，当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には，次に掲げる協力をするものとす

る。また，工期経過後においても同様とする。

① 調査票等に必要な事項を正確に記入し，発注者に提出する等必要な協力をするものとする。
② 調査票等を提出した事業所を発注者が，事後に訪問して調査・指導の対象となった場合には，その実施に協力するものとする。
③ 正確な調査票等の提出が行えるよう，労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調製・保存する等，日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行うものとする。
④ 対象工事の一部について下請負契約を締結する場合には，当該下請負工事の受注者（当該下請負工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）が上記と同様の義務を負う旨を定めるものとする。

(2)　諸経費動向調査

受注者は，当該工事が発注者の実施する諸経費動向調査の対象工事となった場合には，調査等の必要な協力をするものとする。また，工期経過後においても同様とする。

(3)　施工実態調査

受注者は，当該工事が発注者の実施する施工実態調査の対象工事となった場合には，調査等の必要な協力をするものとする。また，工期経過後においても同様とする。

(4)　受注者の独自の調査・試験等

受注者は，工事現場において独自の調査・試験等を行う場合，具体的な内容を事前に監督員に説明し，その承諾を得るとともに，その成果を発表する場合においても，事前に発注者に説明し，承諾を得るものとする。

1.18.3
費用負担

発注者は、前記1.18.2のうち，ボーリングを必要とする地質調査，応力計算又は比較検討等を必要とする高度な設計，電波障害調査等特別な費用を要するものについては，その費用を負担するものとし，その他の場合は諸経費に含まれるものとする。

1.18.4
創意工夫の提出

受注者は，工事施工において，自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する項目，または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項（様式第23・24号）について，工事完了までに監督員に提出することができる。

第１９節　工程表及び履行報告

1.19.1 工程表の提出

契約書第３条第１項に規定する「設計図書に基づく工程表」は，様式第20号に定めるものとする。

1.19.2 履行報告

受注者は，契約書第11条の規定に基づき，様式第21号に定める様式により月ごとの工事結果及び翌月以降の予定を示す工程表を，毎月末日までに監督員に提出しなければならない。

1.19.3 工事の進捗

(1)　監督員は，受注者の責により工事等の進捗が遅れ，完成期限に間に合わないと判断する場合には，その旨受注者に通知するものとする。
(2)　受注者は，前項の通知を受けたときは，完成期限を厳守するために必要な対策について監督員の承諾を得た上で，自らの負担でこれを実施しなければならない。

第２０節　施工計画書

1.20.1 施工計画書の提出

受注者は，工事着手前に次の各号に掲げる事項を記載した施工計画書を監督員に提出しなければならない。
ただし，各工種ごとの細部計画等，工事着手前に提出することが困難なものについては，当該工種に着手する前に別途提出することができるものとする。
なお，監督員は，提出された施工計画書に不備または明らかな不安全な瑕疵等がある場合は，受注者に対し修正を求めることができるものとする。

(1)　工事概要
(2)　計画工程表
(3)　現場組織表
(4)　安全管理
(5)　施工方法（主要施工機械、仮設設備計画及び工事用地等を含む）
(6)　施工管理計画
(7)　緊急時の体制及び対応
(8)　交通管理
(9)　環境対策
(10)　現場作業環境の整備
(11)　建設副産物
(12)　関係法令の対応に関する事項
(13)　光ｹｰﾌﾞﾙの近接工事に関する事項
(14)　仕様書に定められた事項
(15)　その他必要事項

1.20.2

施工計画書の承諾

受注者は，仕様書で施工計画の承諾を得るものとされた事項については，当該事項に着手する１箇月前までに監督員に別途提出し，その承諾を得なければならない。

1.20.3
変更施工計画書

受注者は，施工計画書の重要な内容を変更する場合は，その都度速やかに，監督員に変更施工計画書を提出し，必要な事項については承諾を得なければならない。

1.20.4
その他

受注者は、入札手続に総合評価落札方式が適用された工事にあっては、入札前に提出した確認資料等で提案した，施工計画等の内容を全て記載しなければならない。

ただし、発注者が採用を認めないことを通知した提案については、施工計画書に記載してはならない。

第２１節　材料

1.21.1
使用材料

工事に使用する材料は,設計図書に規定する場合及び仮設物を除き新品でなければならない。

1.21.2
使用機器及び材料の品質

契約書第13条第１項に規定する「中等の品質」とは，JIS規格が定められている場合にあってはこの規格に適合したもの，又はこれと同等の品質を有するものをいう。

1.21.3
機器及び材料の承諾等

(1)　受注者は，工事に使用する材料については，あらかじめ品名，製造元，品質規格及び使用概算数量等を明記する他,受注者が品質を判定した資料を添付した工事等材料承諾願（様式第３号）を監督員に提出し，その承諾を得なければならない。

　ただし，別に定めるものを除きJISマーク表示認可を受けた材料、製品及び監督員から指示のあった材料等については，あらかじめ，品名，製造元，JIS規格及び使用概算数量等を，明記した工事材料使用届（様式第５号）を監督員に提出すればよいものとする。

(2)　受注者は，監督員が必要と認めた主要な機材について，あらかじめ，製作図を提出して，監督員の承諾を得なければならない。

(3)　機器には，製造元，製造年月，形式，製造番号，性能等を

記した銘板を取付けるものとする。

1.21.4
不良品の使用

受注者は，監督員の承諾を得たものであっても，不良品，破損又は変質したものについては，使用してはならない。

1.21.5
工事用材料及び製品の規格

この仕様書に示す材料及び製品の規格は，日本国内の規格によっているが，受注者は，監督員が承諾する試験機関の確認を得たもの，又は監督員が本仕様書の規格と同等以上と認めたものを使用することができる。

なお，品質の確認のために必要となる費用は，受注者の負担とする。

1.21.6
色等の指示

指定色及び字体等は，設計図書又は監督員の指示によるものとする。

1.21.7
材料の搬入及び検査

受注者は，材料の搬入ごとに，その材料が設計図書に定められた条件に適合することを確認し，必要に応じ，証明となる資料を添えて，工事材料検査願（様式第４号）を監督員に提出し，検査を受けなければならない。

ただし，特記仕様書又は監督員が指示する軽微な材料についてはこの限りではない。

1.21.8
自主検査

(1)　自主検査は，機材の製造工場において，現場搬入の前に行うものとし，検査が完了したときは，その成績書を速やかに監督員に提出しなければならない。

(2)　自主検査は，次の場合について行うものとする。

1)　設計図書に定められた場合

2)　試験によらなければ，設計図書に定められた条件に適合することが証明できない場合。

ただし，製造者の標準品で，実験値などが整備されているものは，性能表又は能力計算書など能力の証明となるものをもって検査に代えることができるものとする。

(3)　試験方法はJIS等に定めのある場合は，これによるものとし，定めのない場合は，監督員の指示により行うものとする。

1.21.9
工場立会い検査

工場立会い検査は，仕様書に定める機材のほか監督員が必要と認める機材について行うものとする。

第 ２２ 節　支給材料

1.22.1
支給材料

契約書第 15 条の規定に基づき，材料を支給する場合は，支給材料の品名，規格，形状寸法，数量，引渡し時期，引渡し場所を特記仕様書に定めるものとする。
なお，契約書第 15 条第 3 項に規定する受領書は，様式第 25 号によるものとする。

1.22.2
支給材料の管理

受注者は，発注者から支給材料を受領したときは，適正に保管しなければならない。

1.22.3
支給材料の返還

受注者は，材料の支給を受けた工事の完了時において，未使用の支給材料がある場合には，返還書（様式第 26 号）を作成し，監督員に提出するとともに支給材料を返還しなければならない。

第２３節　工事中の安全の確保

1.23.1
安全対策

(1)　受注者は，工事関係者だけでなく，付近住民，一般通行人及び一般通行車両等の第三者の安全の確保を図らなければならない。
(2)　受注者は，所轄警察署，道路管理者，鉄道事業者，河川管理者，労働基準監督署等の関係者及び関係機関と緊密な連絡体制を確保し，工事中の安全を確保しなければならない。
(3)　受注者は，道路，鉄道，河川，水路，電力施設，通信施設，ガス施設及び水道施設等又は建築物の近傍における工事の施工に当たっては，これらに損害を与えないように十分に注意しなければならない。
(4)　受注者は，工事現場を明確に区分し，第三者の工事現場への立入りを防止する措置を講じなければならない。
(5)　受注者は，工事の施工に当たり，事故等が発生しないよう使用人等に安全教育の徹底を図り，事故を防止しなければならない。また，現場に則した安全訓練等について，工事着手後，原則として作業員全員の参加により毎月，半日以上の時間を割当て安全教育を実施し監督員に報告するものとする。
　なお，施工計画書に当該工事の内容に応じた安全・訓練等の具体的な計画を作成し，監督員に提出するとともに，その

実施状況を報告するものとする。
① 安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育
② 当該工事内容，手順等の周知徹底
③ 工事安全に関する法令、通達、指針等の周知徹底
④ 当該工事における災害対策訓練
⑤ 当該工事現場で予想される事故対策
⑥ その他，安全・訓練等として必要な事項

(6)　前記(1)，(2)，(3)，(4)，(5)に要する費用は，諸経費に含まれるものとする。

1.23.2
交通安全

(1)　受注者は，自らの管理下にある工事用車両の運行に当たっては，事故等を防止しなければならない。
(2)　受注者は，工事に使用する車両について，監督員の指示に従い一般の車両と区別するための措置を講じておかなければならない。

1.23.3
工事の安全

(1)　受注者は，工事現場が隣接し又は同一場所において別途工事がある場合は，請負業者間の安全施工に関する緊密な情報交換を行うとともに，非常時における臨機の措置を定める等の連絡調整を行うため，関係者による安全協議会を組織するものとする。
(2)　監督員が，労働安全衛生法第30条第１項に規定する措置を講じる者として，同条第２項の規定に基づき，受注者を指名した場合には，受注者はこれに従うものとする。
(3)　受注者は，工事中における安全の確保をすべてに優先させ，労働安全衛生法等関係法令に基づく措置を常に講じておくものとする。特に重機械の運転，電気設備等については，関係法令に基づいて適切な措置を講じておかなければならない。
(4)　受注者は，高所作業，深部の掘削その他特殊な作業については，有資格者又は適切な労働者を使用するものとする。
(5)　受注者は、足場工の施工にあたり，枠組み足場を設置する場合は，「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省　平成２１年４月）」によるものとし，足場の組立、解体又は変更の作業時及び使用時には、常時、全ての作業床において，二段手すり及び幅木の機能を有するものでなければならない。

1.23.4
火災の防止

受注者は，工事中の火災予防のため次の各号に掲げる事項を厳守するものとする。
(1)　伐開除根，掘削等の作業前に雑木，草等を野焼きしてはな

らない。

なお，やむを得ず焼却する場合には，所轄消防署に連絡し，その指示を受けるものとする。

(2)　受注者は，使用人等の喫煙等の場所を指定し，指定場所以外での火気の使用は禁止しなければならない。

(3)　受注者は，ガソリン，塗料等の可燃物の周辺に火気の使用を禁止する旨の表示を行い，周辺を整理しなければならない。

1.23.5
危険物の取扱い

受注者は，爆発物又は危険物等を備蓄し，使用する必要がある場合には，関係法令を遵守するとともに，関係官公署の指示に従い，適切な措置を講じておかなければならない。

1.23.6
災害の防止

(1)　受注者は，工事の施工中における豪雨，豪雪，出水及び強風等に対し，常に災害を最小限に食い止めるための機材等を準備するとともに，防災体制を確立しておかなければならない。

(2)　受注者は，施工計画の立案に当たっては，既往の気象記録及び洪水記録並びに地形等現地の状況を考慮の上施工方法及び施工時期を決定しなければならない。

(3)　災害発生時においては，第三者及び作業員の安全確保をすべてに優先させるものとする。

1.23.7
事故等の報告

受注者は，工事の施工中に事故等が発生した場合は，直ちに監督員に通報するとともに，工事中事故報告書（様式第19号）を速やかに監督員に提出し，監督員から指示がある場合にはその指示に従わなければならない。

第２４節　環境対策

1.24.1
環境対策の基本姿勢

受注者は,関連法令及び条例並びに仕様書の規定を遵守の上，騒音，振動，大気汚染及び水質汚濁等の問題については，施工計画及び工事の実施の各段階において十分に検討し，周辺地域の環境保全に努めなければならない。特に次の各号に示す地域の工事施工には十分な対策を講じなければならない。

(1)　相当数の住居が集合している区域

(2)　学校，保育所，病院，診療所，図書館及び特別養護老人ホーム等の敷地の周囲おおむね80ｍ区域

(3)　その他騒音，振動が問題となる区域

(4)　一般道路への工事用車両の乗り入れ区域

(5)　河川，溜池，地下水等を用水とする地域

1.24.2
環境問題への対応

受注者は，環境への影響が予知され又は発生した場合は，直ちに監督員に報告し，監督員から指示があればそれに従わなければならない。第三者から環境問題に関する苦情があった場合には，受注者は，本章1.11.3及び1.11.4の規定に従い対応しなければならない。

1.24.3
第三者への損害

発注者又は監督員は，工事の施工に伴い地盤沈下，地下水の断絶等の理由により第三者への損害が生じた場合に，受注者に対して，受注者が善良な管理者の注意義務を果たし，その損害が避け得なかったか否かの判断をするための資料の提出を求めることができる。この場合において，受注者は必要な資料を提出しなければならない。

1.24.4
排出ガス対策型建設機械の使用

受注者は，工事の施工にあたり表１－１に示す一般**工事用建設機械を使用する場合、およびトンネル坑内作業にあたり表1-2に示すトンネル工事用建設機械を使用する場合は、「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（平成17年法律第51号）」に基づく技術基準に適合する機械、または、**「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日付け建設省経機発第249号，最終改正平成14年4月1日付け国総施第225号)」，「排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規程（平成18年3月17日付け国土交通省告示第348号）」もしくは「第３次排出ガス対策型建設機械指定要領（平成18年3月17日付け国総施第215号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用しなければならない。
ただし、平成７年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目的で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業もしくは建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化設備を装着した建設機械についても、排出ガス対策型建設機械と同等と見なすことができる。
ただし、これにより難い場合は監督員と協議するものとする。

表1-1　一般工事用建設機械

機　　種	備　　考
・バックホウ・トラクタショベル（車輪式）・	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kw以

ブルドーザ・発動発電機（可搬式）・空気圧縮機（可搬式）・油圧ユニット（以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシーンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの；油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入・引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバースサキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転式オールケーシング掘削機）・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ・ホイールクレーン	上260kw以下）を搭載した建設機械に限る。

表1-2　トンネル工事用建設機械

機　　種	備　　考
・バックホウ・トラクタショベル・大型ブレーカ・コンクリート吹付機・ドリルジャンボ・ダンプトラック・トラックミキサ	ディーゼルエンジン（エンジン出力30kw～260kw）を搭載した建設機械に限る。 ただし、道路運送車両の保安基準に排出ガス基準が定められている自動車の種別で、有効な自動車検査証の交付を受けているものは除く。

1.24.5
低騒音型・低振動型建設機械の使用

受注者は，建設工事に伴う騒音振動対策技術指針(建設大臣官房技術審議官通達，昭和62年3月30日)によって低騒音・低振動型建設機械を設計図書で使用を義務付けている場合には，低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定(建設省告示，平成9年7月31日)に基づき指定された建設機械を使用しなければならない。ただし，施工時期・現場条件等により一部機種の調達が不可能な場合は，認定機種と同程度と認められる機種又は対策をもって監督員と協議することができるものとする。

第２５節　文化財の保護

1.25.1
文化財の保護

受注者は，工事施工に当たって文化財（文化財保護法にいう文

化財をいう。以下同じ。）の保護に十分注意し，使用人等に文化財の重要性を十分認識させ工事中に文化財を発見したときは，直ちに監督員に報告し，その指示に従わなければならない。

1.25.2
埋蔵物の発見

受注者が工事の施工に当たり，文化財その他の埋蔵物を発見した場合は，発注者の委嘱に応じ当該埋蔵物を発見したものとみなし，発注者は，当該埋蔵物の発見者としての権利を保有するものとする。

第２６節　建設副産物

1.26.1
産業廃棄物

受注者は，産業廃棄物が搬出される工事の施工にあたっては，産業廃棄物管理表（マニフェスト）により，適正に処理されていることを確認するとともに監督員が求めた場合は提示しなければならない。

なお，産業廃棄物の処分については，種類，発生量，分別・保管・運搬・処分の方法，処理業者への委託内容等について施工計画書に記載しなければならない。

1.26.2
再生資源及び建設副産物

受注者は，特記仕様書に示す再生資材の使用及び建設副産物の活用等を行う他，関連法令を遵守して建設副産物の適正な処理及び再生資源の活用を図らなければならない。

(1)　受注者は，資源の有効な利用の促進に関する法律（平成3年4月26日法律第48号、最終改正平成14年2月8日法律第1号）に基づき，再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書（以下「再生資源利用計画書等」という。）を作成し，施工計画書に含め監督員に提出しなければならない。また，建設副産物責任者について，受注者に所属するものの中から選定し，施工計画書に記載しなければならない。
　なお、再生資源利用計画書等の様式は、国土交通省のリサイクルホームページの「ＣＲＥＤＡＳシステム」によるものとする。

(2)　受注者は，再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書等を作成した場合には，工事完了後速やかに実施状況を記録し監督員に提出するとともに，工事完成後１年間保存しなければならない。なお、実施記録の様式は、国土交通省のリサイクルホームページの「ＣＲＥＤＡＳシステム」によるものとする。

第２７節　施工管理

1.27.1
施工管理体制の確立

受注者は，工事の施工に当たっては、施工計画書に従い施工し、品質及び出来形が契約書類に示された基準等に適合するよう，自らの責任において，設備，組織等の施工管理体制を確立しなければならない。

1.27.2
品質管理巡回指導

発注者は，必要に応じて，品質管理状況の点検及び指導を行うため,巡回指導員を派遣することができるものとし，受注者はこれに協力しなければならない。この場合において，監督員は，実施日及び巡回指導員名等を受注者に通知するものとするが，必要な場合はこの通知をおこなわずに巡回指導員を派遣することができるものとする。

第２８節　検査及び立会い

1.28.1
検査及び立会い願

受注者は，契約書第13条及び第14条に規定に基づき定められた仕様書に従って，工事の施工について監督員の立会い又は検査を請求する場合は，工事施工立会い（検査）願（様式第６号）を監督員に提出しなければならない。

なお，遠距離の工場での立会い又は検査など往復に相当な日時を要する場合には，事前に監督員と日程を調整の上，工事立会い（検査）願を提出しなければならない。

1.28.2
監督員の検査権等

監督員は，工事が契約書類どおり行われているかどうかの確認をするために，いつでも工事現場又は製作工場に立ち入り，立会い又は検査し得るものとし，受注者はこれに協力しなければならない。

なお，監督員が必要と認めた場合には，監督員が製作工場に滞在し，一部又は全部の工程について立会い又は検査を行うことができるものとする。

1.28.3
検査に必要な費用

契約書第13条第２項及び第14条第６項に規定する「直接要する費用」とは，検査又は立会いに必要な準備，人員及び資機材等の提供並びに写真その他資料の整備のために必要な費用をいう。

なお，監督員が製作工場に滞在して立会い又は検査を行う場合，受注者は監督業務に必要な机，椅子，ロッカー，電話等の備わった専用の執務室を無償で提供するとともに，光熱水費を負担しなければならない。

1.28.4
検査及び立会いの省略

監督員は，設計図書に定められた検査及び立会いを省略することができる。この場合において，受注者は自己の負担で，施工管理記録，写真等の資料を整備し，監督員の要求があった場合にはこれを提出しなければならない。

1.28.5
検査及び立会いの時間

検査及び立会いの時間は，当社の勤務時間内とする。

ただし，検査及び立会いを必要とするやむを得ない理由があると監督員が認めた場合は，この限りでない。

1.28.6
受注者の責任

受注者は，契約書第９条第２項第３号，第13条第２項又は第14条第１項若しくは同条第２項の規定に基づき，監督員の立会いを受け，又は検査に合格した場合にあっても，契約書第17条，第31条及び第37条に規定する義務を免れないものとする。

第２９節　施　　工

1.29.1
施　　工

(1)　設計図書に示された設備が，その機能を完全に発揮するよう確実に施工しなければならない。
(2)　施工は，設計図書及び監督員の承諾を受けた実施工程表，施工計画書，施工図等により行う。

1.29.2
施工図等

(1)　受注者は，現地の状況に応じた工事が施工がされるように作成された施工図等を監督員に提出し，監督員の承諾を受けたうえで施工しなければならない。
　ただし，あらかじめ監督員の承諾を受けた場合は，この限りでない。
(2)　施工図等の内容を変更する必要が生じた場合は，変更施工図等を作成し，監督員の承諾を得るものとする。

1.29.3
施工の立会い

監督員の立会いは，下記の場合に行うものとする。

(1)　設計図書に定められた場合
(2)　主要機器が設置された場合
(3)　施工後に検査が困難な箇所を施工する場合
(4)　総合試験運転を行う場合
(5)　監督員が特に指示する場合

1.29.4
施工の検査

(1)　監督員の検査は，下記の場合に行うものとする。
1)　設計図書に定められた場合
2)　監督員の指定した工程に達した場合

(2)　合格した工程と同じ工法により施工した部分についての以後の検査は，抽出検査とする。
ただし，監督員が特に指示したものはこの限りでない。

1.29.5
施工検査に伴う試験

(1)　試験は下記の場合により行うものとする。
1)　設計図書に定められた場合
2)　試験によらなければ，設計図書に定められた条件に適合することが証明できない場合

(2)　試験が完了したときは，その成績書を速やかに監督員に提出しなければならない。

第３０節　工事の変更等

1.30.1
工事の変更指示等

監督員が，契約書第18条及び第19条の規定に基づく設計図書の変更又は訂正（以下「工事の変更」という。）の指示を行う場合は，工事変更指示書（様式第１号）によるものとする。

なお，現地取り合わせによる軽微なもの等については，工事打合簿（様式第２号）により行うものとする。

ただし，緊急を要する場合その他の理由により監督員が，受注者に対して口頭による指示等を行った場合には，受注者は，その指示等に従うものとする。

監督員は，口頭による指示等を行った場合には，速やかに文書により口頭による指示等の内容を受注者に通知するものとする。

受注者は，監督員からの文書による通知がなされなかった場合において，その口頭による指示等が行われた７日以内に書面で監督員にその指示等の内容の確認を求めることができるものとする。

1.30.2
施工時期及び施工時間の変更

受注者は，設計図書に施工時期及び施工時間が定められている場合でその時間等を変更する必要がある場合は，あらかじめ監督員と協議するものとする。

1.30.3
変更工事の施工

受注者は，工事の変更指示が行われた場合には，その指示に従って工事を施工しなければならない。

第３１節　諸経費

1.31.1
諸経費

諸経費とは，工事目的物を施工するために直接必要な費用以外で，消費税及び地方消費税相当額を除いたものをいい，品質管理,工程管理，安全管理等の工事管理に関する費用，各種報告書の作成，工事記録調書の作成，検査等のために必要な労務及び資材の提供，設計図面で受注者の負担で行うとされた技術業務その他技術管理に必要な費用，現場事務所，試験室，宿舎，車庫，雑品倉庫に関する費用その他営繕に関する経費，現場事務所，宿舎等の光熱水費，現場事務所の労務管理，現場事務所職員の人件費，事務経費，福利厚生，租税公課その他現場で必要とする費用，工事の施工に当たる企業の経営管理活動に必要な本社及び支店等における経費，契約の保証に必要な費用，工事の施工に当たる企業の経営を継続して運営するために必要な付加利益等をいう。

第３２節　工事の一時中止

1.32.1
一時中止の要件

契約書第20条１項に規定する「工事用地等の確保ができない等」とは，次の各号に該当する場合などをいう。

(1)　埋蔵文化財の調査，発掘の遅延及び埋蔵文化財が新たに発見された場合
(2)　関連する他の工事の進捗が遅れた場合
(3)　工事着手後，環境問題等が発生した場合

1.32.2
工事の一時中止における措置

契約書第20条第１項及び第２項の規定に基づき，監督員が工事の全部又は一部の施工の一時中止を書面により通知した場合において，工事現場の保全を監督員が指示した場合は，受注者は，これに従うとともに、保全・管理に関する基本計画書を、監督員に

提出するものとする。

1.32.3
工事の一時中止に伴う増加費用の協議

(1)　受注者は、工事の一時中止に伴い増加費用が生じた場合は、請求額を記した増加費用の協議書を監督員に提出するものとする。
(2)　受注者からの請求があった場合においては、監督員が算定した増加費用の額を記した増加費用の協議書をもって、受注者と協議するものとする。
(3)　増加費用の額について監督員からの協議書により受注者は同意書を監督員に提出するものとする。なお、協議開始の日から28日以内に協議が整わない場合には，監督員が定め，受注者に通知する。

第３３節　不可抗力による損害

1.33.1
災害通知書の提出

受注者は，災害発生後直ちに被害の詳細な状況を把握し，当該被害が契約書第29条の規定の適用を受けると思われる場合には，遅滞なく工事災害通知書（様式第８号）により発注者に通知するものとする。なお、工事災害通知書を通知した場合は、その工事災害に関する報告書等を本章1-45-5に規定する「技術関係資料登録票」を作成し、監督員に提出するものとする。

1.33.2
採択基準

契約書第29条第１項に規定する「設計図書で基準を定めたもの」とは，工事現場又は監督員が認めた観測地点において，次の各号に掲げるものをいう。
(1)　降雨に起因する場合
次のいずれかに該当する場合とする。
1)　連続雨量（途中24時間以上中断することなく降った合計雨量をいう。）が150mm以上
2)　24時間雨量（任意の連続24時間における雨量をいう。）が80mm以上
3)　１時間雨量（任意の60分における雨量をいう。）が30mm以上
(2)　強風に起因する場合
最大風速(10分間の平均風速で最大のもの。)が15ｍ/秒以上あった場合
(3)　地震，津波，高潮及び豪雪に起因する場合

地震，津波，高潮及び豪雪により生じた災害にあっては，周囲の状況により判断し，相当の範囲にわたって，他の一般物件にも被害を及ぼしたと認められる場合

(4)　その他設計図書で定めた基準

1.33.3
損害範囲の認定

契約書第29条第２項に規定する「受注者が善良な管理者の注意義務を怠ったことに基づくもの」とは,本章1.23.6に規定する予防措置を行ったと認められないもの及び災害の一因が施工不良等，受注者の責によるとされるものをいう。

1.33.4
損害額の協議

契約書第29条の規定に基づき，発注者が負担する額の契約書第24条第３項による協議において，協議開始の日から28日以内に協議が整わない場合には，監督員が定め受注者に通知する。

なお、協議開始の日から28日以内に協議が整わない場合には，監督員が定め受注者に通知する。

第３４節　スライド条項の適用基準

1.34.1
適用の原則

契約書第25条第１項から第４項までの規定（以下「スライド条項」という。）に基づく請負代金額の変更（以下「スライド」という。）の適用基準は，次の各項によるものとする。

1.34.2
賃金又は物価の変動

スライド条項に規定する「賃金水準又は物価水準の変動」とは，それぞれ当該工事場所における建設労働者の賃金水準，建設資材の価格，建設機械等の維持修理費，管理費，賃貸料及び運送料等に関する価格水準の変動をいう。

1.34.3
請求の方法

(1)　スライドの請求は，スライドの請求を行う発注者又は受注者が賃金又は物価の変動状況，当該工事の残工事量等を勘案して，適当と判断した日に行うことができる。

ただし，残工期が２箇月未満の場合は，スライドの請求は行えないものとする。

(2)　スライドの請求は，スライド請求書（様式第９号）を相手方に提出することにより行う。

1.34.4
適用の基準日

スライド条項第３項に規定する「基準日」とは，次の各号に掲げるところによるものとする。

(1)　スライドの請求のあった日が１日から25日までの間である

場合においては，当該請求のあった日の属する月の翌月の1日
(2)　スライドの請求のあった日が26日から月末までの間である場合においては，当該請求のあった日の属する月の翌々月の１日

1.34.5
残工事量の算定

変動前残工事代金額及び変動後残工事代金額の算定の基礎となる残工事量の算定は，基準日の前月末までに完成された工事の検査を行い，工事の出来形部分の算定をすることにより行うものとし，監督員と受注者との間で確認するものとする。
ただし，基準日の前月末に部分払のための工事の出来形部分の検査を行うこととしている工事の残工事量の算定は，当該検査と合わせて行うものとする。この場合において，受注者の責により遅延していると認められる工事量は，残工事量に含めないものとする。

1.34.6
スライド額の協議

(1)　契約書第25条第８項に規定する協議開始の日は，精算数量が確定した時点とする。
(2)　受注者から請求又は発注者及び受注者双方からの請求の場合においては，受注者は，監督員から通知のあったスライド額見積方通知書に基づき算定したスライドの請求額を記したスライド額協議書（様式第10号，当該請求額の算出基礎を添付したもの）を監督員に提出するものとする。
(3)　発注者からの請求の場合においては，発注者が算定したスライドの請求額を記したスライド額協議書をもって受注者と協議するものとする。
(4)　上記(2)，(3)のスライド額は諸経費を含むものとする。
(5)　スライド額について，監督員と受注者の協議が整った場合は，協議書により受注者は同意書（様式第11号）を監督員に提出するものとする。
　なお，協議開始の日から28日以内に協議が整わない場合には，監督員が定め，受注者に通知する。

第３５節　単品スライド条項の適用基準

1.35.1
単品スライド条項の適用基準

契約書第25条第５項の規定（以下「単品スライド条項」という。）については，この条項を発動すべき事態が発生し，他機関発注の公共工事にも広く適用される等，客観的に適用の必要が認

められる場合に，適用できるものとする。

第３６節　臨機の措置

1.36.1
措置の請求

監督員は，契約書第26条第３項の規定により，暴風，豪雨，高潮，地すべり，落盤，火災，騒乱，暴動その他自然的又は人為的事象（以下，「天災等」という。）に伴ない，工事目的物の品質・出来形の確保および工期の遵守に重大な影響があると認められるときは，受注者に対して臨機の措置をとることを請求することが出来る。

1.36.2
緊急工事

上記の場合において，受注者が直ちに当該措置に基づく作業をなし得ないか，又はこれを行う意志がない場合には，発注者は，他の者に作業させ，この者に当該作業にかかる費用を支払うことができるものとする。当該作業の結果生じた費用及び当該作業に付随する費用の負担方法は，監督員と受注者が協議し定めるものとする。

第３７節　契約変更

1.37.1
契約変更

発注者と受注者は，次の各号に掲げる場合において，工事請負契約の変更を行うものとする。

(1)　本章１－30－１の規定に基づく、変更により著しく請負代金額に変更が生じる場合
(2)　工事出来高の総額が請負代金額を超えることが予測される場合
(3)　工事完成に伴い精算を行う場合又は契約書第38条に規定する部分引渡しを行う場合
(4)　工期の変更を行う場合
(5)　契約書第39条第１項の支払限度額を変更する場合
(6)　工事施工上必要があると認める場合

1.37.2
変更契約書の作成

前項の場合において，受注者は，変更する契約書を当社所定の書式により作成し，変更契約決定通知書に記載された期日までに，記名押印の上発注者に提出しなければならない。

なお，変更する契約書は，次の各号に基づき作成されるものとする。

(1)　本章1.30.1の規定に基づき監督員が受注者に指示した事項
(2)　スライド額，工事の一時中止に伴う増加費用及び工期の変更日数等決定済みの事項
(3)　その他発注者又は監督員と受注者との協議で決定された事項

ただし，工期の変更，契約書第39条第1項の支払限度額の変更が生じた場合の変更契約書は，当該事項のみの変更とすることができるものとする。

第３８節　工期変更

1.38.1
事前協議

事前協議とは，契約書第18条第４項及び第19条の規定に基づく工事の変更において，当該変更が，工期変更協議の対象であるか否かを監督員と受注者との間で確認することをいう。

1.38.2
事前協議の手続き

監督員は，工事の変更指示を行う場合において，工期変更協議の対象であるか否かを合わせて通知するものとし，受注者はこれを確認するものとする。

なお，受注者は，監督員からの通知に不服がある場合には，７日以内に異議を申し立てることができる。

1.38.3
工期変更協議の手続き

受注者は，事前協議において工期変更協議の対象であると確認された事項及び契約書第20条の規定に基づき工事の一時中止を行ったものについて，契約書第23条に基づく協議開始の日に，必要とする延長日数の算出根拠，変更工程表その他必要な資料を添付の上，工期変更協議書（様式第12号）を監督員に提出するものとする。工期変更日数について，監督員と受注者の協議が整った場合は，受注者は監督員からの協議書により同意書（様式第11号）を監督員に提出するものとする。

なお，監督員は，事前協議により工期変更協議の対象であると確認された事項及び工事の一時中止を指示した事項であっても，残工期及び残工事量等から工期の変更が必要ないと判断した場合には，工期変更を行わない旨の協議に代えることができる。

また、協議開始の日から14日以内に協議が整わない場合には、監督員が定め受注者に通知する。

1.38.4
受注者からの工期延長の請求

受注者は，契約書第21条の規定に基づき，工期の延長が必要と判断した場合には，必要とする延長日数の算出根拠，変更工程表その他必要な資料を添付のうえ速やかに工期延長請求願（様式第13号）を監督員に提出するものとする。

第３９節　年度出来高計画

1.39.1
年度出来高計画

受注者は，契約書第39条第２項に基づき，各会計年度の出来高計画を提出する場合には，年度出来高計画書（様式第14号）により行うものとする。

なお，各会計年度の出来高予定額は，本章1.40.1に規定する各年度における最終の出来形検査願提出時期ごとの年度出来高計画とする。

1.39.2
年度出来高計画の修正

受注者は，契約書第39条第３項に基づき，次年度以降の出来高計画を提出する場合には，年度出来高修正計画書（様式第15号）により行うものとする。この場合において，受注者は，本章1.19の規定に準じて修正後の工程表を提出するものとする。

1.39.3
年度出来高計画の変更

受注者は，年度の途中において工事請負契約の変更が行われた場合,契約書第39条第２項又は第３項に規定する出来高計画の変更を，発注者に提出しなければならない。この場合において，受注者は，本章1.19の規定に準じて修正後の工程表を提出するものとする。

第４０節　工事の出来形部分の確認及び検査

1.40.1
工事の出来形部分の確認

受注者は，契約書第37条第２項の規定により部分払の請求に係る工事の出来形部分の確認を求める場合には，発注者に対し，工事出来形部分検査願　（様式第16号）を，請求月の前月の25日までに提出しなければならない。

監督員は、工事出来形部分検査願が提出された後に、工事の出

来形部分の確認に先立って受注者に対して、検査日を通知するものとする。

発注者は，受注者から提出された工事出来形部分検査願に基づき，完成された工事または製造工場にある工場製品の検査を行い，工事の出来形部分を確認し，その結果を工事出来形部分認定書により受注者に通知するものとする。

受注者は，発注者の確認を受けた工事の出来形部分であっても，契約書第17条及び第31条に規定する義務を免れないものとする。

1.40.2
工事の出来形部分検査願の提出期限の変更

発注者は，特に必要があると認める場合は，受注者とあらかじめ協議の上，前項の規定に係らず，工事出来形部分検査願を提出する期限を変更できるものとする。

1.40.3
工事の出来形部分の検査

工事の出来形部分の検査は，次に掲げる各号に基づいて行うものとする。

(1)　受注者は，自らの負担で工事の出来形部分の検査に必要な測量及び出来高算出作業を行い，その成果を整理し監督員に提出しなければならない。

(2)　監督員は，受注者から提出された成果を審査し，必要に応じて受注者の立会いの上，現場検査または工場検査を行うものとする。この場合において，受注者は，検査に必要な人員，機材等を提供するものとする。

(3)　受注者は，監督員の承諾を得て出来高を実際の工事の出来形部分を超過しない範囲の概算数量で算出することができる。

(4)　内訳書項目の金額に含まれる主たる作業が完了している場合には，その内訳に含まれるすべての作業が完了していなくても，監督員が認めた割合により，工事の出来形部分を算定することができるものとする。

(5)　一式，一箇所等の単位で検測するものについては，その項目すべてが完成するまで出来高としないものとする。

(6)　工事の出来形部分が完成後，受注者はあらかじめ出来形調書，工場製品にあっては試験成績表を作成し，出来形部分検査時に監督員の確認を得なければならない。

ただし，継続して施工しているもので，出来形部分を概算数量で算出しているものはこの限りではない。

第４１節　しゅん功検査

1.41.1
工事のしゅん功届

受注者は，契約書第31条の規定に基づき，工事のしゅん功届（様式第17号）を発注者に提出しなければならない。

1.41.2
工事しゅん功届提出の要件

受注者は，工事しゅん功届を発注者に提出する際には，次の各号に掲げる要件をすべて満たさなければならない。

(1)　設計図書（追加，変更指示も含む。）に示すすべての工事が完成していること。
(2)　契約書第17条第１項の規定に基づき，監督員の請求した改造が完了していること。
(3)　設計図書により義務付けられた工事記録写真，出来形調書，変更設計図面及び工事記録情報等の資料の整備がすべて完了していること。
(4)　最終変更契約書を発注者と締結していること。
　ただし，契約書第24条に基づく請負代金額の変更，増加費用，損害額及び契約書第25条に基づく変動前残工事代金額，変更後工事代金額，請負代金額の変更額について協議中のため，この変更契約を締結できない場合で契約工期に達した場合は，その部分を除く最終変更契約書が準備されていること。

1.41.3
検査日及びしゅん功検査員名の通知

監督員は，工事のしゅん功検査に先立って受注者に対して，検査日及びしゅん功検査員名を通知するものとする。この場合において，受注者は，検査に必要な書類及び資料等を整備するとともに，必要な人員及び機材等を準備し，提供しなければならない。

1.41.4
しゅん功検査の内容

しゅん功検査員は，監督員及び受注者の立会いの上，工事目的物の品質，出来形及び出来栄えを対象として契約書類と対比し，次の各号に掲げる検査を行うものとする。

(1)　工事の出来形検査
　工事の出来形について，形状，寸法，精度，数量，品質及び出来栄えの検査を行う。
(2)　工事管理状況の検査

工事管理状況について，書類，記録及び写真等を参考にして検査を行う。

また、関係法令等に基づく免許申請等を行っている場合は、当該申請書類と現地との整合に関する検査を行う。

1.41.5
軽微な修補の取扱い

(1)　修補の指示

しゅん功検査員は，修補の必要があると認めた場合においても，その修補が軽微であると判断した場合には，受注者に対して，期限を定めて修補の指示を行うことができるものとする。

ただし，受注者がその指示に異議を申し出た場合はこの限りでない。

(2)　修補の完了の確認

検査員が，修補の指示をした場合において，修補の完了の確認は監督員が行うものとする。監督員は，検査員の指示どおり修補が完了したと認めた場合には，受注者に対して完了確認の通知書を交付するものとする。

(3)　修補が完了しない場合

検査員が指示した期間内に修補が完了しなかった場合には，軽微な修補としての取扱いをやめ，発注者は，契約書第31条第２項の規定に基づき検査の結果を通知するものとする。

(4)　検査完了期間の取扱い

前(2)により修補の完了が確認された場合は，その指示の日から修補完了の確認の日までの期間を，又は前(3)により取扱いをやめた場合は，その指示の日から期限の日までの期間を，それぞれ契約書第31条第２項に規定する期間に含めないものとする。

(5)　検査結果の通知

監督員が，この軽微な修補の取扱いに基づき，検査員の指示した修補の完了を認め，受注者に完了確認の通知書を交付した場合においても，契約書第31条第２項の規定に基づいて発注者が行う検査結果の通知において，不合格とすることを妨げるものではない。

1.41.6
一部しゅん功検査

契約書第38条に規定する「指定部分」が完了した場合には，前項までの各項を準用して，一部しゅん功検査を行うものとする。この場合において，「工事」とあるのは「指定部分にかかる工事」，「最終契約変更」とあるのは「部分引き渡しに伴う契約変更」，「しゅん功検査」とあるのは「一部しゅん功検査」，「し

ゅん功検査員」とあるのは「一部しゅん功検査員」とそれぞれ読み替えるものとする。

第４２節　請負代金の支払

1.42.1
請負代金の支払

発注者が，請負代金を受注者の指定する金融機関（日本国内の本支店）の口座に振り込む手続きを完了したときをもって，請負代金の支払が完了したものとする。

第４３節　遅延日数の算定

1.43.1
遅延日数の算定

契約書第45条第３項及び第４項に規定する「遅延日数」は，次式により算定するものとする。

遅延日数＝　（しゅん功届受領日－契約工期日）＋
（補修の完了届受領日－不合格の通知日）

なお，不合格の通知日及び修補の完了届受領日は，それぞれ契約書 第31条第２項及び第６項に規定するものをいい，本章1.41.5に規定するものは含めないものとする。

第４４節　部分使用及び機能使用

1.44.1
適用範囲

監督員は，次の各号に掲げる場合において契約書第33条の規定に基づき，受注者に対し部分使用を請求することができるものとし，受注者は正当な理由が有る場合を除き承諾するものとする。
(1)　別途工事の用に供する必要がある場合
(2)　一般の用に供する必要がある主要な道路又は水路の場合
(3)　その他特に必要と認められる場合

1.44.2
部分使用検査

監督員は，前項の規定に基づき部分使用の必要が生じたときには，受注者の立会いの上，当該工事目的物の出来形の検査を行うものとする。

この場合において受注者は，当該工事目的物の出来形検査調書を作成し，監督員に提出するとともに，その他検査に必要な資料，写真等を準備し，又必要な人員，機材等を提供するものとする。

1.44.3
部分使用の協議

受注者は，部分使用の協議に同意した場合は，部分使用同意書（様式第18号）を監督員に提出するものとする。

1.44.4
機能使用

機能使用とは、交通規制のもとで施工された工事目的物の一部又は全部が、規制解除により契約書第28条による検査・引渡しされる前に一般の交通の用に供される状態をいう。

機能使用は、工事目的物の一部又は全部が所期の機能を発揮する状態に達したと監督員が認め機能使用を通知した場合に行うものとする。

機能使用により受注者に損害を及ぼした時は、発注者が損害を賠償するものとする。ただし、受注者の責に帰する欠陥等があった場合は、受注者の負担でこれを修補しなければならない。

第４５節　工事記録等

1.45.1
工事記録等

受注者は，西日本高速道路株式会社「工事記録写真等撮影要領（施設編)」及び監督員の指示に従って，工事の段階ごとに，その着手から完成までの施工状況が識別できる写真を整理し，監督員に提出しなければならない。

1.45.2
工事完成写真

受注者は，西日本高速道路株式会社「工事記録写真等撮影要領（施設編）」及び監督員の指示に従って，工事の完成に際し，完成した工事目的物を撮影し，写真帳としてまとめ監督員に提出しなければならない。

1.45.3
その他

受注者は，工事記録写真，工事完成写真の撮影にあたり，電子媒体を用いて行う場合は，事前に監督員と打ち合せを行い使用するものとする。

1.45.4
出来形調書

受注者は，監督員の指示に従って，出来形測量を行い，出来形調書を作成し，監督員に提出しなければならない。

1.45.5
工事完成図書

受注者は，工事が完成したときは，次の工事完成図書を作成し，監督員に提出するものとする。

なお，提出は製本及び電子媒体とし,電子媒体については西日本高速道路株式会社「工事完成図書の電子納品要領」により作成し，提出部数，製本等については特記仕様書によるものとする。

(1)　工事しゅん功図

工事しゅん功図は，設計原図を基に，すべての設計変更及び現場変更を明確に記載し，作成するものとする。

(2)　取扱説明書集

取扱説明書集は，次の書類をとりまとめたものとする。

1)　各機器の取扱説明書
2)　各機器の点検，整備方法書
3)　各機器詳細図
4)　結線図，展開接続図等
5)　使用機器一覧表（品名，製造元，形式，容量又は出力，数量等）
6)　試験成績書（工場試験，　現地試験）
7)　予備品，保守用品一覧表
8)　その他監督員の指示したもの

(3)　施工図集

施工図集は，監督員の承諾を得た施工図をとりまとめて作成するものとする。

(4)　施設設備集計データ

施設設備集計データは，監督員の指定した様式により各機器に対して作成するものとする。

1.45.6
費用の負担

前記1.45.1，2，3，4，6に要する費用は諸経費に含まれるものとし，5に要する費用は受注者の負担とする。

第４６節　工事カルテの作成及び登録

1.46.1

ＣＯＲＩＮＳへの登録

受注者は、受注時又は変更時において工事請負代金額が500万円以上の工事について、工事実績情報サービス（ＣＯＲＩＮＳ）入力システムに基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し監督員の確認を受けた上、登録機関に以下のとおり登録申請しなければならない。
また、登録機関発行の「登録内容確認書」が届いた場合は、その写しを直ちに監督員に提出しなければならない。なお、これに要する費用は受注者の負担とする。

1)　受注時の申請は、契約締結後土曜日、日曜日、祝日を除き１０日以内とする。
2)　完成時の申請は、しゅん功届提出後１０日以内とする。
3)　受注時の内容に変更があった場合の申請は、変更があった日から土曜日、日曜日、祝日を除き１０日以内とする。ただし、変更時と完成時の間が１０日に満たない場合は、変更時の提出

を省略できるものとする。また、請負代金のみの変更については、原則として申請を要しない。

第４７節　保険の付保及び事故の補償

1.47.1 保険の付保

契約書第50条に規定する火災保険，建設工事保険その他の保険の付保は任意とする。

1.47.2 法定保険の加入

受注者は，雇用保険法，労働者災害補償保険法，健康保険法，中小企業退職金共済法の規定により，使用人等の雇用形態に応じ，使用人等を被保険者とするこれらの保険に加入し又は，加入させなければならない。

1.47.3 業務上の事故補償

受注者は，使用人等の業務に関して生じた負傷，疾病，死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。

1.47.4 建設業退職金共済組合への加入

(1)　受注者は，自らの負担で建設業退職金共済組合に加入し，その掛金収納書を工事請負契約締結後１箇月以内に発注者に提出しなければならない。

　ただし，期限内に収納書を提出できない特別な事情がある場合においては，あらかじめ，その理由及び証紙購入予定時期を書面により申し出るものとする。

(2)　受注者は，上記(1)ただし書きの申し出を行った場合又は，請負契約額の増額変更があった場合等において，共済証紙を追加購入した場合は，当該共済証紙に係る収納書を工事完成時までに提出しなければならない。

　なお，共済証紙を購入しなかった場合は，その理由を書面により発注者に提出しなければならない。

第４８節　特許権等の使用に係わる費用負担

1.48.1 特許権等の使用に係わる費用負担

(1)　受注者は，契約書第８条の規定に基づき，特許権等の対象となっている工事材料，施工方法等の使用に関して費用の負担を

発注者に求める場合には，第三者との補償条件の交渉を行う前に発注者と協議しなければならない。

⑵　契約書第８条において，販売価格，損料及び使用料等に特許権等に係わる費用を含んで流通している材料，機械等については，発注者が設計図書に特許権等の対象である旨の明示がなく，かつ受注者がその存在を知らなかったとしても，受注者はその使用に関して要した費用を別途請求することはできないものとする。

第４９節　特許権等の帰属

1.49.1
特許権等の帰属

⑴　受注者は，当該工事の施工に関連して発明，考案，創作及び商標としての標章が確定（以下「発明等」という。）したときは，速やかに書面により発注者に報告しなければならない。

⑵　前記の発明等が，発注者受注者共同によるものであるときは，発注者と受注者で協議のうえ，それぞれの持ち分を定め，特許，実用新案，意匠及び商標出願をするものとする。

第５０節　著作権等の権利の帰属

1.50.1
著作権等の権利の帰属

発注者が，引渡しを受けた契約の目的物が「著作権法」に規定される著作物に該当する場合は，当該著作物の著作権は発注者と受注者の両者で共有するものとする。

なお，発注者は当該著作物を自由に加除又は編集して利用することができる。

第５１節　かし担保

1.51.1
欠陥の調査

受注者は、工事期間中又はかし担保期間中に欠陥が出現した場合において,受注者は，発注者又は監督員がその欠陥の原因の調査をすることを指示したときは，これに従わなければならない。なお、当該欠陥が受注者の責に帰すべきものでないときは，この調査に要した費用は発注者の負担とする。また、当該欠陥が受注者の責に帰すべきものであるときは，上述の調査に要した費用は受注者の負担とし，受注者は，契約書第17条及び第44条の規定に従って改造，修補を行うものとする。

1.51.2
かし担保の請求期間

契約書第44条第２項に規定する「設計図書に特別に定めるかし担保の期間」は，１年とする。

第５２節　発生材の処理

1.52.1
発生材の処理

発生材のうち，特記仕様書により引渡しを要するものは，監督員の指示を受けた場所に整理のうえ発生材調書（様式第７号）を作成し監督員に提出するものとする。

第５３節　工事看板の設置

1.53.1
工事看板の設置

受注者が工事名，請負人名等を記載した看板を設置しようとする場合には，監督員の承諾を得るものとする。

第５４節　紛争中における発注者，受注者の義務

1.54.1
紛争中における発注者受注者の義務

(1)　受注者は，契約書第52条及び第53条の規定に基づく手続きを行った場合においても，工事を継続しなければならない。
(2)　発注者は，受注者が発注者の定めたものに不服があり，契約書第52条及び第53条の規定に基づく手続きを行った場合においても，契約書第34条及び第40条の規定に基づく前金払，契約書第37条及び第41条の規定に基づく部分払を行わなければならない。
(3)　前記の場合で，契約変更を必要とする時は，発注者及び受注者は，不服のある事項又は発注者，受注者間で争いのある事項を明らかにした仲裁合意書を作成の上、発注者が定めたものに従い，受注者は契約変更の締結を行うものとする。
(4)　工事が完成した場合，前記変更契約書に基づき，契約書第31条の規定に基づく検査及び引渡し及び契約書第32条に基づく請負代金の支払を行うものとする。

第５５節　交通安全管理

1.55.1
交通安全管理

(1)　受注者は，工事用搬路として，公衆に供する道路を使用するときは，積載物の落下等により，路面を損傷し，あるいは汚損することのないようにするとともに，特に第三者に損害を与えないようにしなければならない。
　なお，第三者に損害を及ぼした場合は，契約書第28条によって処置するものとする。

(2)　受注者は，工事車両による土砂,工事用資材及び機械などの輸送を伴う工事については，関係機関と打合せを行い，交通安全に関する担当者，輸送経路，輸送期間，輸送方法，輸送担当業者，交通誘導員の配置，標識安全施設等の設置場所，その他安全輸送上の事項について計画を立て，災害の防止を図らなければならない。

(3)　受注者は，供用中の道路に係る工事の施工にあたっては，交通の安全について，監督員，道路管理者及び所轄警察署と打合せを行うとともに，関連する諸法令に基づき，安全対策を講じなければならない。

(4)　受注者は，公衆の交通が自由かつ安全に通行するのに支障となる場所に材料又は設備を保管してはならない。また，毎日の作業終了時及び何らかの理由により建設作業を中断するときには，交通管理者協議で許可された常設作業帯を除き一般の交通に使用される路面からすべての設備その他障害物を撤去しなくてはならない。

(5)　受注者は，建設機械，資材等の運搬にあたり，車両制限令（昭和36年政令第265号）第３条における一般的制限値を超える車両を通行させるときは，道路法第47条の２に基づく通行許可を得ていることを確認しなければならない。

車両の緒元	一般的制限値（最高限度）
幅	2.5m
長さ	12.0m
高さ	3.8m
重量　総重量	20.0t（但し，高速自動車国道・指定道路について，最大25.0t）
軸重	10.0t
隣接軸重の合計	隣り合う車軸に係る軸距1.8m未満の場合は18t （隣り合う車軸に係る軸距が 1.3m以上で，かつ，当該隣り合う車軸

	に係る軸重が 9.5t 以下の場合は19t）1.8m 以上の場合は 20t
輪荷重	5.0t
最小回転半径	12.0m

ここでいう車両とは，人が乗車し，または貨物が積載されている場合にはその状態におけるものをいい，他の車両をけん引している場合にはこのけん引されている車両を含む。

第５６節　関係法令及び条例の遵守

1.56.1 関係法令及び条例の遵守

(1)　受注者は，工事の施工に当たっては，受注者の責任・義務においてすべての関係諸法令及び条例等を遵守し，工事の円滑な推進を図るとともに，諸法令の適用運用は受注者の責任において行わなければならない。

(2)　受注者は，工事の設計図書が関係諸法令及び条例に不適当であったり，矛盾していることが判明した場合は，直ちに監督員に報告し，その確認を求めなければならない。

第５７節　秘密の保持

1.57.1 目　的

工事の施工のため，秘密情報及び個人情報を開示及び提出するにあたり，以下のとおり定める。

1.57.2 定　義

秘密保持に関する定義は，下記の各項目に定めるところによる。

(1)　「秘密情報」とは，業務の遂行上知り得た情報で、公知でないものをいう。

(2)　「個人情報」とは，個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第57号）に規定されたものをいう。

(3)　「秘密情報」及び「個人情報」は紙・磁気・電子等の保存形・固定形態の如何を問わない。

1.57.3 目的外の使用

工事施工のために提出された秘密情報及び個人情報を業務の目的以外に使用してはならない。

1.57.4 適正な管理

工事の施工にあたり知り得た秘密情報及び個人情報について，善良な管理者の注意をもって，漏えい，滅失又は毀損の防止その他適切な管理に必要な措置を講じるものとする。

監督員が求めた場合，受注者は管理に必要な措置について定めた情報管理基準を発注者に提示する。

1.57.5
資料の持出し

秘密情報及び個人情報は，物的移動（複製物を作成し，複製物を移動させる場合も含む）や電磁気・電子的・ネットワーク的移動等の方法を問わず，無断で持ち出してはならない。

1.57.6
守秘義務

工事の施工にあたり知り得た秘密情報及び個人情報を他に開示・漏洩してはならない。

ただし，下記の項目に該当するものは，この限りでない。

(1)　この契約への違反によらず公知であるか，又は入手後公知となった情報
(2)　相手方より受領する以前から当事者が知っていた情報
(3)　相手方の書面による同意を事前に得て開示された情報
(4)　法的手続き，あるいは公認会計士による監査等により当事者が開示を求められる情報

1.57.7
工事完了後の取扱い

工事完了後，速やかに，秘密情報及び個人情報が記載又は記録された文書，図面，電磁的記録等の媒体（複写物及び複製物を含む。）を返還し，返還が不可能又は困難な場合には，監督員の指示に従って，当該媒体を消去又は廃棄する。

秘密保持に係る規定は，法令の定めにあるものを除き，工事完了後もなお有効とする。

1.57.8
工事の下請負を行う場合の取扱い

当該工事の一部を下請負に付した場合には，受注者は下請負人に対して，秘密情報及び個人情報に係る秘密保持について，受注者の義務と同様の義務を負わせるものとする。

第５８節　関係図書の準用

1.58.1
関係図書の順用

本共通仕様書に記載の無い項目については、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）」、「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）」の、それぞれ最新版によるものとする。

なお、標準仕様書中の「監督職員」は「監督員」、「受注者等」は「受注者」と読み替えるものとする。

また、公共建築工事標準仕様書中の「標準図」は特に注記が無い場合、「公共建築設備工事標準図」を示すものとする。ただし、西日本高速道路株式会社施設機材仕様書集（以下「機材仕様書集」という）に記載のある事項については、そちらを優先するものとする。

第２編　トンネル非常用設備工事

第１章　機　　　材

第１節　機　　　器

1.1.1
機器仕様

通報機器、消火機器、水噴霧機器、盤等については西日本高速道路株式会社「施設機材仕様書集」（以下「機材仕様書集」という。）による。

第２節　施　　　工

1.2.1
消火ポンプ

消火ポンプは、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第５編 1.2.1（揚水用ポンプ（横形））」の当該事項による。

1.2.2
呼水ポンプ

呼水ポンプは、原則として小型うず巻きポンプ又は小形給水ポンプユニットを使用するほか、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第５編 1.2.1（揚水用ポンプ（横形））」の当該事項による。

1.2.3
小型給水ポンプユニット

小形給水ポンプユニットは「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第５編 1.2.3（小形給水ポンプユニット）」の当該事項による。

1.2.4
取水ポンプ

取水ポンプは原則として水中モーターポンプ又は小型うず巻きポンプを使用するほか、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第５編 1.2.6（汚水、雑排水及び汚物用水中モーターポンプ）及び 1.2.4（深井戸用水中モーターポンプ）、1.2.1（揚水用ポンプ（横形））」の当該事項による。

第３節　配管材料及び付属品

1.3.1
管及び継手

管及び継手は、表 2.1.1 及び表 2.1.2 によるほか、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編 2.1.2 （管及び継手)」の当該事項による。

表 2.1.1　管

呼称	規格		
	番号	名称	備考
鋼管	JIS G 3442	水道管用亜鉛めっき鋼管	
塩ビライニング鋼管	JWWA K 116	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	SGP-VA （一般配管用） SGP-VB （一般配管用） SGP-VD （地中配管用）
	WSP 011	フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管	SGP-FVA（一般配管用） SGP-FVB（一般配管用） SGP-FVD（地中配管用）
ポリ粉体鋼管	JWWA K 132	水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管	SGP-PA （一般配管用） SGP-PB （一般配管用） SGP-PD （地中配管用）
	WSP 039	フランジ付ポリエチレン粉体ライニング鋼管	SGP-FPA（一般配管用） SGP-FPB（一般配管用） SGP-FPD（地中配管用）
鋳鉄管	JIS G 5526	ダクタイル鋳鉄管	3 種管
	JIS G 5527	ダクタイル鋳鉄異形管	

注　1．　規格にない塩ビライニング鋼管、ポリ粉体鋼管は、材料、製造方法、品質等は、JWWA K 116,JWWA K 127,JWWA K 129 及び JWWA K 132 に準じたものとする。

２．　塩ビライニング鋼管、ポリ粉体鋼管は原則として下記の用途により分類する。

表 2.1.2　管の用途

	塩ビライニング鋼管	ポリ粉体鋼管
屋内配管	SGP-VA、SGP-FVA	SGP-PA、SGP-FPA
多湿箇所ならびに屋外露出配管	SGP-VB、SGP-FVB	SGP-PB、SGP-FPB
地中埋設配管	SGP-VD、SGP-FVD	SGP-PD、SGP-FPD

表 2.1.3　継手

呼　称	規		格
	番　号	名　　　　称	備　　　考
鋼管継手	JIS B 2301	ねじ込み式可鍛鋳鉄製管継手	亜鉛めっきを施したもので地中配管用は外面に樹脂被覆を施したもの
	JIS B 2302	ねじ込み式鋼管製管継手	亜鉛めっきを施したもの
	JPF MP 004	圧力配管用ねじ込み式可鍛鋳鉄製管継手	亜鉛めっきを施したもので地中配管用は外面に樹脂被覆を施したもの
	JIS B 2220	鋼鉄製溶接式管フランジ	亜鉛めっきを施したもの
	JIS B 2239 JPF MP 009	鋳鉄製管フランジ通則 ねじ込み式可鍛鋳鉄製管フランジ	亜鉛めっきを施したもの
	JIS B 2311	一般配管用鋼製突合せ溶接式管継手	亜鉛めっきを施したもの
	JIS B 2312 JIS B 2313 JIS B 2316	配管用鋼製突合せ溶接式管継手 配管用鋼板製突合せ溶接式管継手 配管用鋼製差込み溶接式管継手	亜鉛めっきを施したもの
	JPF MP 006	ハウジング形管継手	リング型
	JPF MP 003	水道用ライニング鋼管用ねじ込み式管端防食管継手	
塩ビライニング鋼管及びポリ粉体鋼管継手	JPF MP 008	水道用ライニング鋼管用ねじ込み式管端防食管フランジ	
	JPF NP 001	管端防食管継手用パイプニップル	ロングニップル
	WSP 011	フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管	(エルボ、チーズ、レジューサー)
	WSP 039	フランジ付ポリエチレン粉体ライニング鋼管	(エルボ、チーズ、レジューサー)
	JPF MP 006	ハウジング形継手	リング型

注　１．　規格にない鋼製溶接式管継手は、材料、製造方法、品質等は、JIS 及び JWWA に準じたものとする。

２．　JIS B 2312 及び JIS B 2313 は、JPF SP 011（鋼製突合せ溶接式亜鉛めっき管継手）による亜鉛めっきを施したものとする。

３．　JIS B 2220 及び JIS B 2239 の呼び圧力 10k フランジは、並形とする。

1.3.2
一　般　用　弁

一般用弁は、「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)第 2 編 2.2.1（一般用弁及び栓)」の当該事項による。

1.3.3
安　　全　　弁

安全弁は、次によるほか、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編 2.2.4（蒸気用安全弁)」に準ずる。

（1）原則として常用圧力 1.96MPa 以下のものとする。

（2）フランジ規格は JIS によるものとする。
ただし、呼び径が 50 ㎜以下で常用圧力が 1.96MPa 以下のものは、ねじ込み形とすることができる。

1.3.4
減　　圧　　弁

減圧弁は、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編 2.2.2（減圧弁)」によるものとし、装置に組み込む安全弁、ストレーナー及び圧力計等は特記仕様書及び図面による。

1.3.5
自動空気抜弁

自動空気抜弁は、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編 2.2.5（自動エア抜弁）又は JIS B 2063（水道用空気弁)」によるものとし、自動的に空気を排除する機能を有し、作動が確実でかつ最高使用圧力に十分耐えられるものとする。

1.3.6
量　　水　　器

量水器は、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編 2.2.14（量水器)」による。

1.3.7
ボールタップ

ボールタップは、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編 2.2.17（ボールタップ)」による。

1.3.8
ストレーナー

ストレーナーは、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編 2.2.11（ストレーナー)」による。

1.3.9
伸縮管継手

伸縮管継手は、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編 2.2.6（伸縮管継手)」による。

1.3.10
接　合　材

接合材は、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編 2.2.24（接合材)」による。

1.3.11
配管用雑材料

配管用雑材料は、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編 2.2.27（雑材料)」による。

第４節　銘　　板

1.4.1
銘　　板

銘板は、機材仕様書集による。

第５節　予備品及び保守用品

1.5.1
予備品及び保守用品

予備品及び保守用品は、機材仕様書集及び特記仕様書及び図面による。

第２章　施　　工

第１節　通　報　設　備

2.1.1
一　般　事　項

機器の取り付け位置は、特記仕様書及び図面による。

2.1.2
火災検知器及び押ボタン式通報装置

機器の取り付けは、正確に心出しを行いトンネル内装工との取り合いを十分考慮し、側壁にアンカーボルトで取り付ける。

2.1.3
防災受信盤等

防災受信盤等の据付は、電気通信工事共通仕様書の当該事項による。

第２節　消火設備及び水噴霧設備

2.2.1
一　般　事　項

機器の取り付け位置は、特記仕様書及び図面による。

2.2.2
消火栓及び消火器箱

消火栓及び消火器箱の取り付けは、箱内排水を十分考慮し、トンネル内装工との取り合いを十分考慮して取り付ける。

2.2.3
自 動 弁 装 置

自動弁装置格納箱の取り付けは、トンネル内装工との取り合いを十分考慮して取り付ける。

2.2.4
水噴霧ヘッド

水噴霧ヘッドの取り付けは、照明器具等との取り合いを十分考慮し、正確に心出しを行い、取り付け位置に狂いを生じないよう施工する。

第３節　ポ　ン　プ　設　備

2.3.1
ポンプの据付け

ポンプの据付けは、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 5 編 2.2.2（ポンプ)」の当該事項による。

2.3.2
ポンプ制御盤の据付け

ポンプ制御盤の据付けは、電気通信工事共通仕様書等の当該事項に準ずる。

第４節　配　　　管

2.4.1
配　　　管

配管は、次によるほか「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編第 2 章第 4 節（配管施工の一般事項)、2.4.1（一般事項)、2.4.7（給水配管)、第 5 節（管の接合)、2.5.1（一般事項)、2.5.2（鋼管)、

2.5.3（塩ビライニング鋼管、耐熱性ライニング鋼管及びポリ粉体鋼管）、2.5.8（鋳鉄管）、第 6 節（勾配、吊り及び支持）、及び第 7 節（埋設配管）」の当該事項による。

2.4.2
消火栓及び水噴霧配管

（１）管は口径を縮小しない工具を使用し管軸心に対して直角に切断し、切り口はやすり等を用いて平滑に仕上げ、管の内外面のまくれ、ささくれ等を取り除く。
（２）管と継手の接合は、管接合材を使用しねじ込み締め付けるものとし、溶接接合の場合は、Ｖ型突合せ溶接とし、加工後防錆処理（溶融亜鉛ペイント）を施す。
（３）配管に漏れが生じた場合は、その処理としてコーキングを行ってはならない。
（４）配管後、各接続継手のねじ切り余長部にはさび止め塗装を行う。
（５）配管終了時又は配管を一時中止する場合は、その配管端にプラグ・キャップ等で閉鎖し、異物の入らないよう養生する。
（６）配管支持材は、加工後溶融亜鉛めっきによる防錆処理を施す。
　また、横走り管等のブラケットその他を溶接する場合は、スラッジを十分取除き亜鉛系塗料による防錆処理を行う。
（７）水圧試験は、配管途中は隠ぺい埋もどし前及び配管完了後行う。

2.4.3
消火栓及び配水主管

（１）JIS G 5526（ダクタイル鋳鉄管）及び JIS G 5527（ダクタイル鋳鉄異形管）によるダクタイル鋳鉄管の接続はタイトジョイント方式とし、接続は極力屈曲部を少なくし、衝撃水頭により接続部が離脱しないよう施工する。
　管をコンクリート巻きにする場合は、あらかじめ仮止めを行い、水圧試験後、コンクリートを打設する。
（２）管を敷設する際には、衝撃水頭に十分耐えられる固定を行う。

2.4.4
管の保温工事

管の保温工事は、特記仕様書及び図面によるほか、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第２編第３章第１節（保温工事）」の当該事項による。

第５節　銘板の取り付け

2.5.1
銘板の取り付け

銘板の機器略号の番号は、入口から順次追っていくものとする。

第６節　塗装及び防錆工事

2.6.1
塗装及び防錆工事

塗装及び防錆は、機材仕様書集によるほか、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第２編第３章第２節（塗装及び防錆工事)」の当該事項による。

第３章　試運転調整

第１節　単独試運転調整

3.1.1
一　般　事　項

非常用設備機器の据付け後、設備単体で運転及び調整を行い、監視、制御、作動状態に異常のないものとする。

3.1.2
通　報　設　備

防災受信盤とトンネル内通報機器との運転及び調整とし、次による。

（１）防災受信盤からの操作によるもの
（２）火災検知器の作動によるもの
（３）押ボタン式通報装置の作動によるもの
（４）その他必要事項

3.1.3
消火設備及び水噴霧設備

防災受信盤及びポンプ制御盤と消火栓、給水栓、自動弁装置及びポンプ類との運転及び調整とし、次による。

（１）防災受信盤からの操作によるもの
（２）ポンプ制御盤からの操作によるもの
（３）消火栓のポンプ起動停止押釦による作動及び放水
（４）給水栓のポンプ起動停止押釦による作動及び放水
（５）自動弁の現地手動操作及び防災受信盤からの操作による作動及び放水
（６）水槽の水位によるポンプの作動及び警報
（７）防災受信盤とポンプ制御盤の監視及び制御の表示及び作動
（８）その他必要事項
（９）水噴霧測定装置を用いた放水量測定

第２節　総合試運転調整

3.2.1
一般事項

単独試運転調整後、トンネル内火災事故を想定し、トンネル非常用設備及びこれに関連する諸設備が連動し、異常なく監視、制御、作動するものとする。

3.2.2
総合試運転調整（Ａ）

押ボタン式通報装置を作動させ、防災受信盤にて関連設備との連動状態に異常のないものとする。

表 2.3.1　連動する関連設備

設備名＼トンネル等級	ＡＡ	Ａ	Ｂ	Ｃ
遠方監視制御設備	○	○	○	○
可変式道路情報板設備	○	○	○	○
トンネル照明設備	○	○	○	○
トンネル換気設備	○	△		
ＣＣＴＶ設備	○			

注１．△については設置するトンネルとする。

3.2.3
総合試運転調整（Ｂ）

火災検知器を作動させ、防災受信盤にて関連設備との連動状態に異常のないものとする。

表 2.3.2　連動する関連設備

設備名＼トンネル等級	ＡＡ	Ａ
遠方監視制御設備	○	○
可変式道路情報板設備	○	○
トンネル照明設備	○	○
トンネル換気設備	○	△
ＣＣＴＶ設備	○	

注１．△については設置するトンネルとする。

第３編　トンネル換気設備工事

第１章　機　　　　材

第１節　機　　　　器

1.1.1
機　器　仕　様

換気機、ダクト関係機器、搬入搬出装置の機器仕様は、機材仕様書集による。

第２節　配管材料及び付属品

1.2.1
管 及 び 継 手

（１）給油配管に使用する材料は、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第２編 2.1.2（管及び継手)」による。
（２）給油装置冷却用配管に使用する材料は、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第２編 2.1.2（管及び継手）の当該事項による。

1.2.2
一　般　用　弁

（１）給油用の一般用弁は「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第２編 2.2.1（一般用弁及び栓)」による。
（２）給油装置冷却用の一般用弁は、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編 2.2.1（一般用弁及び栓)」の当該事項による。

第３節　予備品及び保守用品

1.3.1
予備品及び保守用品

予備品及び保守用品は、機材仕様書集及び特記仕様書による。

第２章　施　　　　工

第１節　換　　気　　機

2.1.1
荷造り及び運搬

（1）荷造りは防湿、防食に注意し、変形、破損のないよう行う。
（2）発着の整理及び保管は遺漏のないよう注意し、現品の現場到着まで整理監督者を派遣し、運搬についての処理を行う。
（3）運搬は可能な限り最大限のユニット構成とし、現場調整及び組立据付けを容易かつ完全に行う。
（4）現品発送前に期日、形状寸法及び重量等を記載した荷造り明細書を提出する。

2.1.2
据　　付　　け

（1）据付けを始める前に、仮設時期、仮設方法、仮設用設備及び機械について監督員の承諾を受ける。
（2）送排気設備は、所定の位置のコンクリート基礎上に、換気機を据付けるものとし、壁面との接合部は、空気漏れのないよう施工する。
（3）ジェットファン設備の据付けは、換気機の中心軸とトンネル中心軸とが平行に、換気機の縦中心線は垂直となるよう施工する。
　なお、吊り金具による支持は 4 箇所以上とし、通行車両による風圧、起動時の軸方向スラスト荷重等を考慮した振れ止め装置を設ける。
（4）ジェットファン設備の吊り金具は、強度的に十分余裕のある金具を使用し取付ける。
　なお、取付け用コンクリートアンカーを打設後、全数静荷重試験を行うものとし、試験荷重は、実荷重の 15 倍以上とする。

2.1.3
塗　　　　装

塗装は、機材仕様書集によるほか、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編第 3 章第 2 節（塗装及び防錆工事）」の当該事項による。

第２節　ダクト関係機器

2.2.1
据　　付　　け

図面に示す所定の位置に、次により据付ける。

（１）ダンパー、ベルマウス管、異形管及び弓形異形曲管等は、壁面との接続部において空気漏れの生じないものとする。

（２）コーナーベーンの取り付けは、通風時の振動等に対して十分耐えられるよう取り付ける。

2.2.2
塗　　　　装

塗装は本編 2.1.3（塗装）に準ずる。

第３節　搬入搬出装置

2.3.1
据　　付　　け

据付けは、「クレーン等安全規則」及びその他関係法令及び規格により安全性を考慮し、実施する。

2.3.2
塗　　　　装

塗装は本編 2.1.3（塗装）に準ずる。

第４節　配　　　管

2.4.1
配　　　　管

配管は、次によるほか、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第２編第２章第５節（管の接合）及び 2.4.1（一般事項）」の当該事項による。

なお、給油用配管及び給油装置冷却水用配管は、各機器の運転に支障のないよう完全に施工する。

第３章　工　場　検　査

第１節　一　般　事　項

3.1.1
一　般　事　項

換気機及び同付属機器の工場製作が完成したときは、機材仕様書集の定めるところにより工場検査を行う。

第４章　試　運　転　調　整

第１節　単独試運転調整

4.1.1
送　排　気　設　備

送排気機及びその付属装置据付け後、各々単体で運転及び調整し、各段階における作動状態を記録する。

なお、記録の項目は、次による。

（１）電動機入力
（２）回転数
（３）振動及び騒音
（４）風量及び風圧
（５）軸受温度及び油温度
（６）絶縁抵抗
（７）その他必要事項

4.1.2
ジェットファン設備

ジェットファン設備をトンネル内に据付けた後、各々単体で運転及び調整し、正逆転運転状態において次による項目を記録する。

（１）電動機入力
（２）振動
（３）絶縁抵抗
（４）その他必要事項

第２節　総合試運転調整

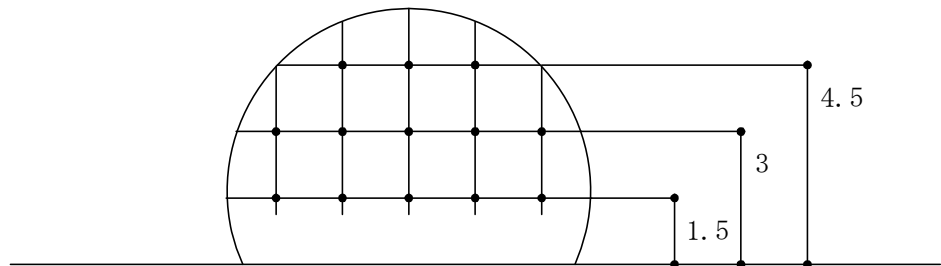
4.2.1
総合試運転調整

単独試運転調整後、一酸化炭素検出装置及び煙霧透過率測定装置、風向風速測定装置等と連動させ全装置の総合試運転調整を行い、運転状況を記録する。

なお、総合試運転は自動運転及び手動運転の両方を行うものとし、記録する項目は本編 4.1.1（送排気設備）又は 4.1.2（ジェットファン設備）によるほか、次による。

（１）トンネル内自然風速（換気機停止）

（２）トンネル内風速（換気機運転）の測定は、トンネル内の気流が比較的層流となる地点を選び、路面上 1.5m、3m、4.5mの各高さ別にそれぞれ 5 点、5 点、3 点の計 13 点の同時測定を行い、平均風速を求める。

単位（m）

（３）騒音の測定は、特記仕様書又は監督員の指示する場所で行う。

第３節　送気フリュー及びスロット開度調整

4.3.1
送気フリュー及び排気スロット

総合試運転と同時又は後に送風フリュー及び排気スロットの開度調整を次により行う。

（１）送、排気量が一様になるよう各送気フリュー及び排気スロットを調整する。

（２）開度調整はダクト内の静圧・動圧及び風速分布等を測定・調査しながら、送気フリュー及び排気スロットの開度調整を行う。

（３）開度調整は、3 回以上行うものとし、調整終了後は当該トンネルに関する諸測定データを取りまとめ監督員に提出する。

第４編　ブース空気調和設備工事

第１章　機　　　　材

第１節　機　　　　器

1.1.1
機器仕様

機器仕様は、機材仕様書集による。

第２章　施　　　　工

第１節　機器の据付け及び取付け

2.1.1
一般事項

「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第３編第２章（施工）」の当該事項による。

2.1.2
空気調和機

空調機の取付は、図面及び特記仕様書によるものとする。

2.1.3
エアーカーテン

エアーカーテンの取付は、図面及び特記仕様書によるものとする。

2.1.4
飛散送風機

飛散送風機の取付けは、図面及び特記仕様書によるものとする。

2.1.5
温風暖房機

温風暖房機の据付は、床面に強固に固定し、燃料タンクへは銅配管とする。

2.1.6
配管工事

空調機の冷媒配管、ドレーン管、温風暖房機の油配管及び新鮮空気ダクト（塩化ビニール管）等の施工は「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第２編第２章（配管工事）」の当該事項による。

2.1.7
保温・塗装工事

冷媒配管の保温、ドレーン管の保温及び塗装、並びダクトの塗装は、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編第 3 章（保温、塗装及び防錆工事）の当該事項による。

2.1.8
電　気　工　事

空調機、エアーカーテン、飛散送風機、ブースターファン等の動力配線、盤等は「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 2 編第 1 章第 2 節（電動機及び制御盤)」の当該事項による。

2.1.9
ダ　ク　ト　工　事

ダクト工事は、「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 3 編第 1 章第 14 節（ダクト及びダクト付属品）並びに第 3 編第 2 章第 2 節（ダクトの製作及び取付け)」の当該事項による。

2.1.10
自動制御設備工事

ブース空調設備における自動制御は「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）第 4 編（自動制御設備工事)」の当該事項による。

第３章　試　運　転　調　整

3.1.1
新鮮空気の取入場所

空調機の新鮮空気は、自動車の排ガスによる影響の少ない場所から取り入れる。

3.1.2
空調機の吹出風量

空調機の吹出し風量（新鮮空気量）は、平均 5m^3/min 程度となるよう調整する。

3.1.3
エアーカーテンの吹出風速と吹出方向

エアーカーテンの送風は、むらのないもので、吹出風速は 5～7m/sec とし、吹出方向は多少ブース外方向に設定する。

3.1.4
飛散送風機の送風流線

飛散送風機の送風流線は、上限をダッチドアより下方になるようにし、調整する。

第５編　重量計等取締機器設備工事

第１章　軸　　重　　計

第１節　機　　　　器

1.1.1
機　器　仕　様

機器仕様は、機材仕様書集による。

1.1.2
予備品及び付属品

予備品及び付属品は、機材仕様書集によるものとする。

第２節　施　　　　工

1.2.1
一　般　事　項

（１）施工に際しては、事前に図面に従い、現場実測の上、装置、機器類の据付け又は詳細図、装置機器まわり配管、配線詳細図等を作成し、監督員の承諾を受けて着手する。
（２）舗装面の掘削、路盤の補強及び舗装工事等については、土木工事共通仕様書による。

1.2.2
機器等の据付け
1.2.2.1
検　出　部

（１）検出部の外箱の表面及び載荷板の表面は、路面にすり付くようにし、その段差は３㎜以内におさめるものとする。
（２）検出部の据付けは、底板に均一に荷重が分布するよう樹脂モルタルを充分に充てんする。
　ただし、検出部の据付けに樹脂モルタルを使用しないでコンクリート舗装と同時に設置する場合は、アンカーボルト等を使用し固定する。
（３）検出部外箱の底部には、大きな開口部があるため、排水管及び電線管をこの開口部から立ち上げる。排水管は、この開口部の最低レベルの位置に立ち上げ、配管勾配は 1/100 を標準とする。
電線管は、なるべくレベルの高い位置に立ち上げる。既設の検出部がある場合は、原則としてその配管を利用して接続するものとする。

（４）一般部用の載荷板は、内部にコンクリートを打設して機能を発揮するので、歪みが発生したり剥離が生じたりしないよう、打設前の載荷板仮設置及びコンクリート付着面の管理は、慎重に行う必要がある。
（５）検出部内のケーブルは、検出部の排水の支障とならないよう考慮するとともに、ロードセル脱着孔引き出してロードセルを交換する事を考慮して、十分な余長をとり、記号を付けるものとする。
（６）接続箱は、検出部に近く点検が容易に行え、他に支障のない箇所に設置する。

1.2.2.2
データ処理装置

データ処理装置（指示部装置）は、原則として料金所内に設置する。
また、データ処理装置（記録部装置）は、原則として管理事務所内に設置する。位置等については、監督員の指示による。

1.2.2.3
警告表示板

警告表示板は、進入車によく視認できる位置とし、原則としてＥＴＣレーンではアイランド後方、自動化レーンでは自動発券機上、有人レーンではブース後方に取り付ける。
支柱の高さ及び設置位置については、監督員の指示による。

第３節　試 運 転 調 整

1.3.1
試運転調整

軸重計を据付け後、検出部、データ処理装置、警告表示板等の各装置の動作確認を行うとともに、これらのシステムとしての機能及び動作状況について異常の無いことを総合的に動作確認し、計測結果が総合精度内（±5%F.S.以内）になるよう各部位の試験調整後、成績書をすみやかに監督員に提出するものとする。

1.3.2
試験車両

試験車両は、15ton 程度の分銅等を積載することにより、駆動軸の軸重量が 10ton 程度となる車両総重量 25ton 程度の 3 軸車両（車輪配列 2-D・D 又は 2-D・4：自動車諸元表の表記）とする。
なお、試験に先立って、車重計で各軸の静止荷重を測定する。

1.3.3
試　験　条　件

（１）静荷重試験

一般部用検出部については、試験車両を静止状態とし、軸重量を2回測定する。高架部用検出部については、試験車両を最徐行で走行させ、車両振動を極力抑えた状態で各軸重量を2回測定する。

（２）動荷重試験（走行試験）

試験車両を、10,20,30,40 km／h を原則とする各速度で走行させ、各軸重量を2回測定する。

なお、試験速度については、現場の状況から安全に実施できる範囲とし、監督員の指示によるものとする。

第２章　車　　重　　計

第１節　機　　　　　器

2.1.1 機　器　仕　様

機器仕様は、機材仕様書集による。

2.1.2 予備品及び付属品

予備品及び付属品は、機材仕様書集によるものとする。

第２節　施　　　　　工

2.2.1 一　般　事　項

施工に際しては、事前に図面に従い、現場実測の上、装置、機器類の据付け又は取り付け詳細図、装置機器まわり配管、配線詳細図等を作成し、監督員の承諾を受けて着手する。

2.2.2 機器等の据付け 本　体　部

（1）本体部は水平に据付け、水平の調節は、各支点台と基礎間にライナーを挿入することにより行う。
（2）ライナーは面圧力を十分維持できる大きさの軟鋼板とし、薄板を幾枚も重ねることはさける。
　なお、ライナーを 2 枚以上重ねて使用する場合は、芯出し後必ず点溶接により一体化する。
（3）本体の揚降作業で玉掛作業を行う場合は、玉掛工により行い安全に十分留意する。
（4）芯出し完了後基礎ボルトにグラウト注入し固定する。
（5）基礎ボルトの締め加減によって、レベル等の調整をしてはならない。
（6）基礎露出面は、仕上げモルタル塗りを行う。

第３節　検　　　　　　定

2.3.1
検　　　　定

車重計の工場製作が完成したときは、製造工場所在地の都道府県の検定官立会いの上、計量法に基づく検定を受け、合格しなければならない。

第４節　試 運 転 調 整

2.4.1
試 運 転 調 整

車重計を据付け完了後、下記の試験を行い、作動状態に異常のないものとする。

（１）外観、寸法並びに据付け状態検査

（２）荷重試験

分銅により 15ton まで 1ton ごとに加圧及び減圧を行い重量を計測し、検定公差範囲に収まることを確認する。

なお、分銅は検定合格品又は同等の精度を有するものとする。

また、15ton 以上については秤量（フルスケール）まで 5ton ごとに検衡装置を使用し、正常に作動するか確認する。

（３）印字動作試験

荷重試験時印字動作を確認する。

提出書類の様式

提 出 書 類 目 次

※提出書類の様式は、ＪＩＳ Ａ列とする。

※印紙税法の課税対象となる書類については、関係法令を遵守の上、提出するものとする。

様式第１号

工　事　変　更　指　示　書

No.＿＿＿＿

工事名	契約番号 指示年月日　　平成　　年　　月　　日
請負人 殿	監督員 指示者　　　　　　　　　　　　印

標記工事について、下記のとおり契約書類の変更を指示する。
なお、本件は別途変更契約書を締結する。

〔変更内容〕
１．変更の概要

２．数量の増減（概算）

項目番号	項　　　　目	単位	増減数量	摘　　要

上記による工期変更協議の対象の有無	有　・　無 （変更日数の協議開始日　　　年　　月　　日）

上記変更工事の工事変更指示書を、受領しました。

（年月日）　　　平成　　年　　月　　日

（請負人名）

現場代理人　　　　　　　　　　　　印

様式第２号

（正）

工　　事　　打　　合　　簿

工事名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

No.＿＿＿＿

平成　　年　　月　　日

監督員	印	主任補助監督員	印

上記、打合簿を受領しました。

平成　　年　　月　　日　　　　　　　　　現場代理人　　　　　　印

（注）正副２枚複写とする。

様式第２号

（副）

工　　事　　打　　合　　簿

工事名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

No.＿＿＿＿

平成　　年　　月　　日

監督員	印	主任補助監督員	印

	補助監督員	施工管理員

上記、打合簿を受領しました。

平成　　年　　月　　日　　　　　　　　　　　　　　　現場代理人　　　　　　　印

（注）正副２枚複写とする。

様式第３号

平成　　年　　月　　日

殿

請負人

現場代理人　　　　　　印

工　事　材　料　承　諾　願

（工事名）

標記について，下記のとおり材料を使用したいので，ご承諾下さいますよう，お願いいたします。

記

品　　　名	製　　造　　元	品　質　規　格	使用概算数量	備　　　考

上記工事の材料を承諾する。

（年月日）　　　平成　　年　　月　　日

印

（注）２枚複写とし，発注者，請負人各１部保管する。

（備考）１．使用箇所について，特に必要がある場合は備考欄に記入する。

２．上記材料の承諾にあたり，指示事項等あれば備考欄に記入する。

様式第４号

平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

請負人

現場代理人　　　　　　　印

工　事　材　料　検　査　願

（工事名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

標記工事について，下記の工事材料を検査方お願いいたします。

記

品　　　名	製　　造　　元	品　質　規　格	使用概算数量	検査希望日時

上記の検査結果は以下のとおりです。

検査実施者の確認	品　　　名	材料の合否	記　　　事
		合・否	
		合・否	
		合・否	
		合・否	
		合・否	

（注）２枚複写とし，発注者，請負人各１部保管する。

様式第５号

平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

請負人

現場代理人　　　　　　　印

工　事　材　料　使　用　届

（工事名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

標記について，下記のとおり材料を使用しますので，お届けいたします。

記

品　　　　名	製　　造　　元	品　質　規　格	使用概算数量	備　　　　考

様式第６号　　　　　　　　　　　　　　（正）

平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

請負人

現場代理人　　　　　　　印

工事施工立会（検査）願

（工事名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

標記工事について，下記の工事施工状況を立会い（検査）方お願いいたします。

記

番号	工　　　種	施　工　場　所	確　認　項　目	立会い（検査） 希　望　日　時

工事施工立会（検査）通知書

現場代理人　　　　　　　殿

（主任補助）監督員　　　　　　　印

上記の工事施工状況の立会い（検査）結果を以下のとおり通知する。

番号	確認･検査 の別	立会実施者	確　認　項　目	立会実施日時	記　　　事

（注）正副２枚複写とする。

（注）記事の欄には、確認実施の場合は特記事項に状況の結果等を記入、検査実施の場合は合否の別を記入する。

様式第６号　　　　　　　　　　　　　　　（副）

平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

請負人

現場代理人　　　　　　　印

工事施工立会（検査）願

（工事名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

標記工事について，下記の工事施工状況を立会い（検査）方お願いいたします。

記

番号	工　　　　種	施　工　場　所	確　認　項　目	立会い（検査） 希　望　日　時

工事施工立会（検査）通知書

現場代理人　　　　　　　　殿

(主任補助)監督員　　　　　　　印

(主任補助)監督員	補助監督員	施工管理員

上記の工事施工状況の立会い（検査）結果を以下のとおり通知する。

番号	確認･検査 の別	立会実施者	確　認　項　目	立会実施日時	記　　　事

（注）正副２枚複写とする。

（注）記事の欄には、確認実施の場合は特記事項に状況の結果等を記入、検査実施の場合は合否の別を記入する。

様式第７号

平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

請負人

現場代理人　　　　　　　印

発　生　材　調　書

（工事名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

標記について，下記のとおり報告します。

１．工事場所
２．発生（受領）年月日
３．原因名及び原因発生年月日

品　　　名	材　　　質 （規格等）	概　算　数　量	
		本数，ｍ	ｋｇ
合　　　計			

（注）１．発生年月日は，工事を施工した日付を記入する。
　　　２．原因別に一葉ずつ作成する。

様式第８号

工　事　災　害　通　知　書

平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

請負人

現場代理人　　　　　　　印

（工事名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

<table>
<tr><td colspan="2">件　　名</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td colspan="2">発生年月日</td><td colspan="6">平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日</td></tr>
<tr><td colspan="2">連 続 雨 量</td><td colspan="6">ｍｍ（　　月　　日　　時　～　　月　　日　　時）</td></tr>
<tr><td colspan="2">24 時間雨量</td><td>ｍｍ</td><td>１時間雨量</td><td>ｍｍ</td><td>最大風速</td><td colspan="2">ｍ／ｓ</td></tr>
<tr><td colspan="2">そ　の　他</td><td colspan="6">（河川の洪水による災害の場合，洪水位，洪水流量，洪水継続時間等記入）</td></tr>
<tr><td colspan="2">災 害 内 容</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>番号</td><td>測点</td><td>災害内容</td><td colspan="2">概算数量</td><td>概算損害額</td><td colspan="2">摘　　要</td></tr>
<tr><td>1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19</td><td></td><td>合　　計</td><td colspan="2"></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">添 付 書 類</td><td colspan="6">(位置図)，(写真）出来れば災害前と対比したものとする。
(数量算出内訳)</td></tr>
</table>

様式第９号

平成　　年　　月　　日

西日本高速道路株式会社　　　支社

支社長（所長）　　　　　　　　　　　殿

（請負人

　　　　　　　　　　　　　　　殿）

住　所

会社名

代表者　　　　　　　　　　印

（西日本高速道路株式会社　支社

支社長(所長)　　　　　　　　印）

ス ラ イ ド 請 求 書

（工事名）

標記工事について，工事請負契約書第 25 条第 1 項から第 4 項及び〇〇工事共通仕様書 1.34 の規定に基づき請負代金額の変更を請求します。

記

１．契約締結日　：　平成　　年　　月　　日

２．工　　　期　：　自）平成　　年　　月　　日

至）平成　　年　　月　　日

３．請負代金額　：　￥　　　　　　　　円

４．スライド額　：　積算数量が確定後，協議する。

（注）（　　）内は，当社から請求の場合を示す。

様式第 10 号

平成　　年　　月　　日

監督員

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

請負人

現場代理人　　　　　　　印

スライド額協議書

（工事名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

標記工事について，スライド額見積方通知書（平成　　年　　月　　日付け）に基づき下記のとおり協議します。

記

1．契約締結日　：　平成　　年　　月　　日

2．工　　　期　：　自）平成　　年　　月　　日

至）平成　　年　　月　　日

3．請負代金額　：　¥　　　　　　　　円

4．適用基準日　：　第 1 回目　　平成　　年　　月　　日

第 2 回目　　平成　　年　　月　　日

5．適用基準日における出来高及び金額

: 第 1 回目　　出来高　　　　%　金額　　　　　　　　　　円

第 2 回目　　出来高　　　　%　金額　　　　　　　　　　円

6．スライド額　：　¥　　　　　　　　　　円

様式第 11 号

平成　　年　　月　　日

監督員

　　　　　　　　　　　　　　　　　殿

請負人

現場代理人　　　　　　　　　　印

○　○[注)] 同　意　書

（工事名）

平成　　年　　月　　日付け　　号で協議のありました工事の一時中止に伴う増加費用の負担額[注）]（スライド額、不可抗力による損害額、工期の変更日数）については同意致します。

以　上

注）表題の○○には、協議のあった内容を記載すること。

印紙税法別表第１の該当する収入印紙

様式第 12 号

平成　　年　　月　　日

監督員

　　　　　　　　　　　　　　　　殿

請負人

現場代理人　　　　　　　印

工　期　変　更　協　議　書

（工事名）

平成　　年　　月　　日付け　　　号をもって御通知のあった標記について，

下記のとおり協議します。

記

1．当初工期　　　平成　　年　　月　　日から

平成　　年　　月　　日まで

2．延長工期　　　平成　　年　　月　　日まで（延長日数　　　日）

（注）変更工程表を添付すること。

様式第 13 号

平成　　年　　月　　日

監督員

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

請負人

現場代理人　　　　　　　印

工　期　延　長　願

（工事名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

標記について，工事請負契約書第 21 条の規定に基づき，下記のとおり延長してくださるようお願いいたします。

記

1．当初工期　　平成　　年　　月　　日から

平成　　年　　月　　日まで

2．延長工期　　平成　　年　　月　　日まで（延長日数　　　日）

3．延長理由

（注）変更工程表を添付すること。

様式第 14 号

平成　　年　　月　　日

西日本高速道路株式会社　　　支社（事務所）

支社長（所長）　　　　　　　　　　　　殿

住　所

会社名

代表者　　　　　　　　印

年度出来高計画書

（工事名）

標記工事の年度出来高予定を下記のとおり計画しましたので，提出します。

記

1．工程表　：　別紙のとおり

2．年度出来高予定額

年　度　区　分	年度出来高予定額	累計出来高予定額
平成　　　年度		
平成　　　年度		
計		

（注）工程表を添付すること。

様式第 15 号

平成　　年　　月　　日

西日本高速道路株式会社　　　支社（事務所）

支社長（所長）　　　　　　　　　　殿

住　所

会社名

代表者　　　　　　　　　印

年度出来高修正計画書

（工事名）

標記工事の年度出来高予定の修正を下記のとおり計画しましたので，提出します。

記

年　度　区　分	修正前出来高予定額	前年度出来高に基づき修正された出来高予定額
平成　　年度		
平成　　年度		
計		

様式第 16 号

平成　　年　　月　　日

西日本高速道路株式会社　　　支社（事務所）

支社長（所長）　　　　　　　　　　　殿

住　所

会社名

代表者　　　　　　　　　印

工事出来形部分（第　　回）検査願

（工事名）

標記について工事出来形部分（第　　回）払を請求したいので,

検査をお願いいたします。

様式第 17 号

平成　　年　　月　　日

西日本高速道路株式会社　　　支社（事務所）

支社長（所長）　　　　　　　　　　　殿

西日住　所

会社名

代表者　　　　　　　　印

工事しゅん功・一部しゅん功届

（工事名）

標記工事（一部しゅん功部分）を完成しましたので，お届けいたします。

様式第 18 号

平成　　年　　月　　日

西日本高速道路株式会社　　　支社（事務所）

支社長（所長）長　　　　　　　　　　　殿

住　所

会社名

代表者　　　　　　　　　印

部　分　使　用　同　意　書

（工事名）

平成　　年　　月　　日付け　　号で協議のありました標記工事

の部分使用につきましては同意いたします。

様式第 19 号

監督員　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿殿

請負人

現場代理人　　　　　　印

工 事 中 事 故 報 告 書

（工事名）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

標記工事について，下記のとおり事故が発生しましたので報告します。

1．発生年月日

2．発 生 場 所

3．死 傷 者 等

分　　類 （一般公衆， 下請業者等）	氏名	性別	年令	住所	所　属 業者名	職種	経歴	死亡	重傷	軽症	物件 その他の 損害

4．事故に対する措置

5．事故の状況及び原因

6．ＪＶの型式（甲型，乙型の別）

7．添付書類（位置図，状況図，写真等）

工　　　　程　　　　表

住　所　　　　　　　　　　工事名

会社名　　　　　　　　　　工事箇所(自)

代表者　　　　　　　　　　　　　　(至)

(代理人)　　　　　　　　　　　　　　　　　平成　　年　　月　　日

	数量	平 成 ○ 年							平 成 ○ 年								備　考
		○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	○月	
準 備 工																	
全　　体																	

様式第22号

技術者台帳

元請会社名	
監理技術者	
生年月日	
（写真添付）	

会社名	
主任技術者	
生年月日	
専任・非専任	
（写真添付）	

会社名	
主任技術者	
生年月日	
専任・非専任	
（写真添付）	

会社名	
主任技術者	
生年月日	
専任・非専任	
（写真添付）	

会社名	
主任技術者	
生年月日	
専任・非専任	
（写真添付）	

元請会社名	
主任技術者	
生年月日	
（写真添付）	

会社名	
主任技術者	
生年月日	
専任・非専任	
（写真添付）	

会社名	
主任技術者	
生年月日	
専任・非専任	
（写真添付）	

会社名	
主任技術者	
生年月日	
専任・非専任	
（写真添付）	

会社名	
主任技術者	
生年月日	
専任・非専任	
（写真添付）	

元請会社名	
主任技術者	
生年月日	
（写真添付）	

会社名	
主任技術者	
生年月日	
専任・非専任	
（写真添付）	

会社名	
主任技術者	
生年月日	
専任・非専任	
（写真添付）	

会社名	
主任技術者	
生年月日	
専任・非専任	
（写真添付）	

会社名	
主任技術者	
生年月日	
専任・非専任	
（写真添付）	

注意事項

① 添付する写真は、縦３ｃｍ、横2.5ｃｍ程度の大きさとし、顔が判別できるものとする。

② 本様式は、２部作成するものとする。ただし、カラーコピー若しくはデジタルカメラ写真を印刷したものを提出してもよい。

様式第 23 号

高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況

<table>
<tr><td>工 事 名</td><td></td><td>請負人名</td><td></td></tr>
<tr><td>項　　目</td><td>評　価　内　容</td><td colspan="2">備　　考</td></tr>
<tr><td rowspan="7">□　高度技術

工事全体を通して他の類似工事に比べて特異な技術力</td><td>□施工規模</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>□構造物固有</td><td colspan="2">既設施工と新設施工の機能拡充又は構造の拡充
運用中の既設設備や建物機能を確保しながらの施工</td></tr>
<tr><td>□技術固有</td><td colspan="2">特殊な工種及び工法
新工法(機器類を含む)及び新材料の適用</td></tr>
<tr><td>□自然・地盤条件</td><td colspan="2">湧水、地下水の影響
軟弱地盤、支持地盤の状況
制約の厳しい作業スペース等
気象現象の影響
地滑り、急流河川、潮流等、動植物等</td></tr>
<tr><td>□周辺環境等、社会条件</td><td colspan="2">埋設物等の地中内の作業障害物
鉄道・供用中の道路・建築物等の近接施工
騒音・振動・水質汚濁等環境対策
作業スペース制約・現道上の交通規制
廃棄物処理</td></tr>
<tr><td>□現場での対応</td><td colspan="2">災害等での臨機の処置
施工状況(条件)の変化への対応</td></tr>
<tr><td>□その他</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="6">□　創意工夫

「高度技術」で評価するほどでない軽微な工夫</td><td>□準備・後片付け</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>□施工関係</td><td colspan="2">加工組立等の工夫
配線、配管等での工夫
施工方法の工夫、施工環境の改善
仮設計画の工夫、施工管理、品質管理の工夫</td></tr>
<tr><td>□品質関係</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>□安全衛生関係</td><td colspan="2">安全施設・仮設備の配慮
安全教育・講習会・パトロールの工夫
作業環境の改善、交通事故防止の工夫</td></tr>
<tr><td>□施工管理関係</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>□その他</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>□社会性等地域社会や住民に対する貢献</td><td>□地域への貢献等</td><td colspan="2">地域の自然環境保全、動植物の保護
現場環境の地域への調和
地域住民とのコミュニケーション
ボランティアの実施</td></tr>
</table>

１．該当する項目の□にﾚマーク記入。

２．具体的内容の説明として、写真・ポンチ絵等を説明資料に整理。

様式第24号

高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況（説明資料）

<table>
<tr><td>工　事　名</td><td colspan="3"></td><td>／</td></tr>
<tr><td>項　　　目</td><td></td><td>評 価 内 容</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>提 案 内 容</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="5">（説　明）</td></tr>
<tr><td colspan="5">（添付図）</td></tr>
</table>

説明資料は簡潔に作成するものとし、必要に応じて別葉とする。

様式第 25 号

平成　　年　　月　　日

西日本高速道路株式会社　　　支社（事務所）

支社長（所長）　　　　　　　　　　　殿

請負人

現場代理人　　　　　　　　印

受　領　書

下記のとおり受領いたしました。

1　　材料名

2　　数　量

3　　形状、寸法、規格

4　　その他

様式第 26 号

平成　　年　　月　　日

監督員

________________________________殿

請負人

現場代理人　　　　　　　印

返　還　書

下記のとおり返還いたします。

1　　品名　________________________________

2　　数量　________________________________

3　　形状、寸法、規格　________________________

4　　貸与年月日　____________________________

5　　その他　______________________________

____

上記については受領いたしました。

西日本高速道路株式会社　　　支社（事務所）

支社長（所長）

________________________________印

（注）２部提出させ、１部請負人に返還する。